

第 1 章

各種行政分野に関するデータ

(「統計でみる市区町村のすがた 2010」) の分析

【第1章の地図データの留意点】

- ・本章で用いた地図は、平成22年4月1日現在の市区町村の区域を示している。
- ・本章で用いた用語の定義は、「統計でみる市区町村のすがた 2010（総務省統計局）
<http://www.stat.go.jp/data/ssds/5b.htm>」に準拠しており、用いたデータも同様である。
- ・【68 自市区町村で従業している就業者数】及び【70 他市区町村からの通勤者数】に用いたデータのうち政令指定都市については、それぞれ2005年国勢調査から「自市で従業する就業者」及び「従業地による就業者のうち他市区町村に常住する就業者」のデータを取得し用いた。
- ・平成21年3月31日から平成22年4月1日の間に合併のあった久喜市、加須市及び印西市については、合併前の旧久喜市、旧加須市及び旧印西市のデータを用いており、合併したその他の市町村のデータの合算は行っていない。
- ・地図データは埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県のみを表示しているが、東京都の離島については、地図に表示せず、又、データの計算からも除外している。
- ・【33 耕地面積】、【41 財政力指数】、【42 実質収支比率】、【43 公債費比率】、【72 ごみ総排出量】及び【73 ごみのリサイクル率】については、データのない東京23区は白塗りとし、自然分類や偏差値等の計算から除外している。
- ・地図データを作成する上で各データを人口総数等で除する等の加工を行っており、その計算式を地図の右上に表示しているが、計算に用いる各データの年次が異なる場合がある。
- ・各地域の特徴を視覚的に表すため、数値を4段階で分類し、表示している。分類方法は原則として自然分類（データ値の変化量が大きい所を境界に分割）で行っているため、それぞれのグループのデータの数やデータの間隔が一定ではない。
- ・コメント欄において平均値との比較を多く用いているが、各市の偏差値を見ると分かりやすい。

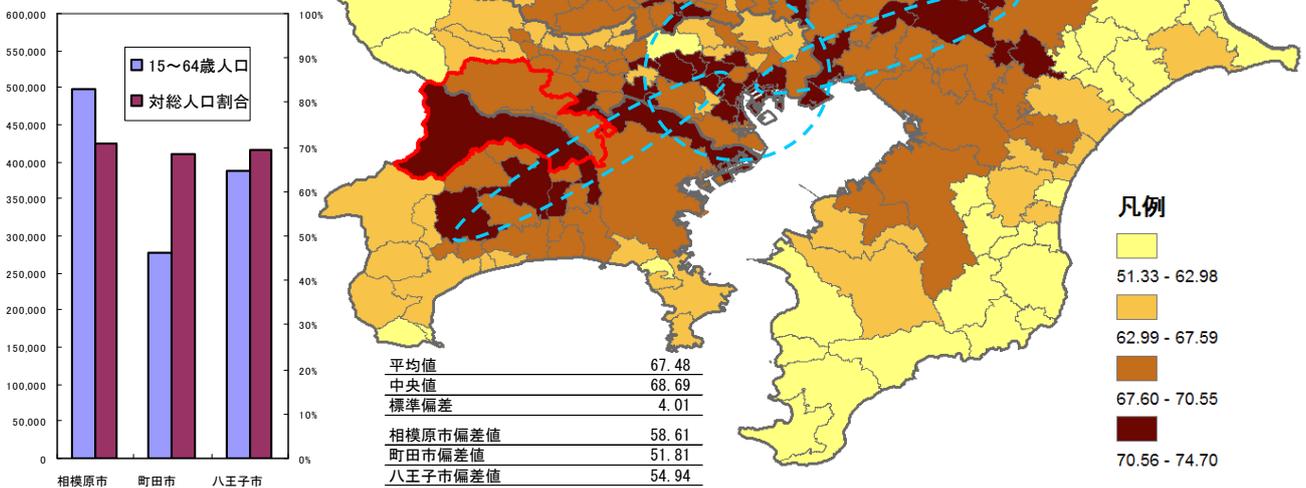
統計と地図でみる首都圏のすがた ～相模原市、町田市、八王子市の現状～

本章では、「統計でみる市区町村のすがた 2010（総務省統計局）」に掲載されている 100 項目の基礎データを加工又は抜粋し、次に掲げる 90 項目について、地図データ化及び分析を行った。地図データ化及び分析にあたり、対象エリアを東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県に限定し、便宜的に「首都圏」と表現している。

項目	頁	項目	頁	項目	頁
1 人口総数	4	31 第2次産業従業者数	19	61 第2次産業就業者数	34
2 15歳未満人口	4	32 第3次産業従業者数	19	62 第3次産業就業者数	34
3 15～64歳人口	5	33 耕地面積	20	63 雇用者数	35
4 65歳以上人口	5	34 製造品出荷額等	20	64 役員数	35
5 外国人人口	6	35 製造業従業者数	21	65 雇人のある業主数	36
6 出生数	6	36 商業年間商品販売額	21	66 雇人のない業主数	36
7 死亡数	7	37 商業事業所数	22	67 家族従業者数	37
8 自然増減	7	38 商業従業者数	22	68 自市区町村で従業している就業者数	37
9 転入者数	8	39 標準価格(平均価格)(住宅地)	23	69 従業地による就業者数	38
10 転出者数	8	40 標準価格(平均価格)(商業地)	23	70 他市区町村からの通勤者数	38
11 昼間人口	9	41 財政力指数	24	71 非水洗化人口	39
12 昼夜間人口比率	9	42 実質収支比率	24	72 ごみ総排出量(総量)	39
13 世帯数	10	43 公債費比率	25	73 ごみのリサイクル率	40
14 1世帯あたり人員数	10	44 歳入決算総額	25	74 小売店数(飲食店を除く)	40
15 一般世帯数	11	45 歳出決算総額	26	75 飲食店数	41
16 核家族世帯数	11	46 地方税	26	76 大型小売店数	41
17 単独世帯数	12	47 幼稚園数	27	77 百貨店数	42
18 高齢夫婦世帯数	12	48 幼稚園在園者数	27	78 道路実延長	42
19 高齢単身世帯数	13	49 小学校数	28	79 都市公園数	43
20 婚姻件数	13	50 小学校教員1人あたりの児童数	28	80 一般病院数	43
21 離婚件数	14	51 小学校児童数	29	81 一般診療所数	44
22 総面積	14	52 中学校数	29	82 歯科診療所数	44
23 可住地面積	15	53 中学校教員1人あたりの生徒数	30	83 医師数	45
24 可住地人口密度	15	54 中学校生徒数	30	84 歯科医師数	45
25 課税対象所得	16	55 高等学校数	31	85 薬剤師数	46
26 納税義務者数	16	56 高等学校生徒数	31	86 老人ホーム数	46
27 事業所数	17	57 労働力人口	32	87 保育所数	47
28 第2次産業事業所数	17	58 就業者数	32	88 保育所入所待機児童数	47
29 第3次産業事業所数	18	59 完全失業者数	33	89 保育所所在児童数	48
30 従業者数	18	60 第1次産業就業者数	33	90 国民健康保険被保険者数	48

3 15～64 歳人口

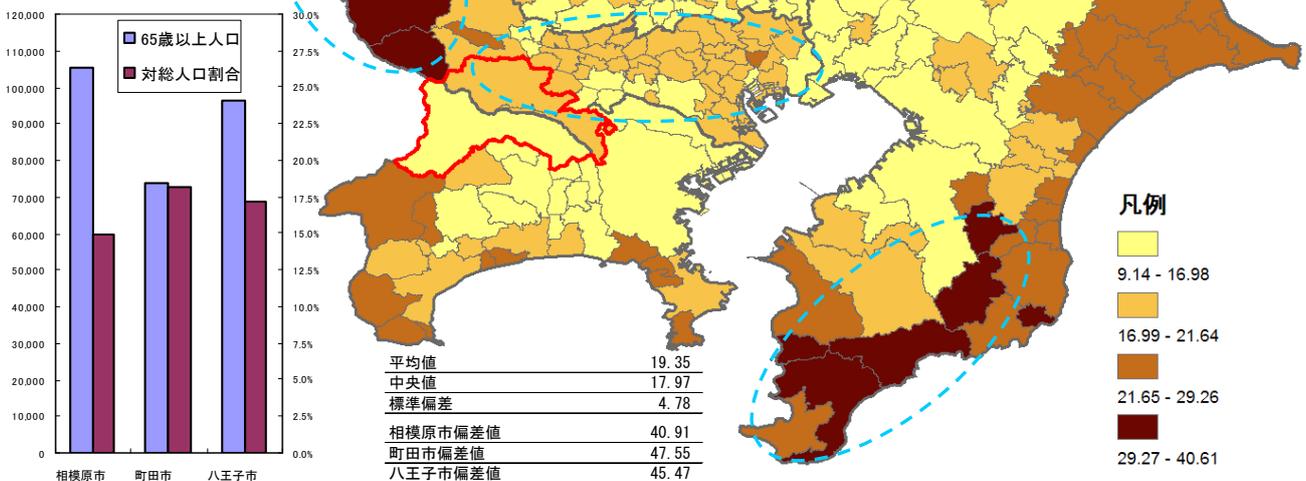
2005 年国勢調査
15～64 歳人口／人口総数
単位：%



- ・生産年齢人口割合は、23 区を中心にドーナツ状に高い自治体が存在する。
- ・通勤に便利な私鉄沿線で割合が高く、小田急線、京王線が通る相模原市は、首都圏の中でも割合の高い自治体となっている。
- ・3 市の比較では、相模原市の割合が高く、町田市が低い、3 市とも平均を上回っている。

4 65 歳以上人口

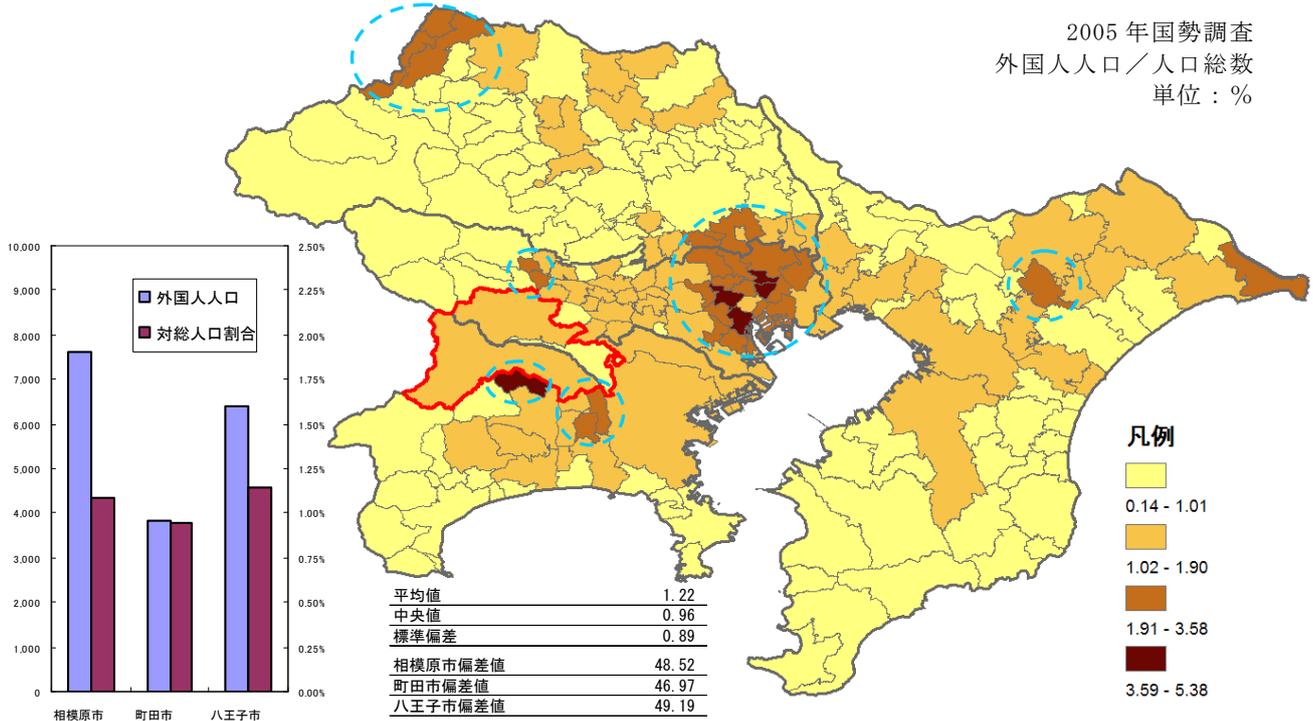
2005 年国勢調査
65 歳以上人口／人口総数
単位：%



- ・奥多摩、秩父、南房総などで極端に高齢化が進んでいる一方、東京都も全体的に老年人口割合が高い。（全国的にみると、都心から比較的近い埼玉県、千葉県、神奈川県が異例であり、今後の急速な高齢化が懸念されている。）
- ・3 市の比較では、町田市の割合が高く、相模原市が低い、3 市とも平均値を下回る比較的若い都市と言える。

5 外国人人口

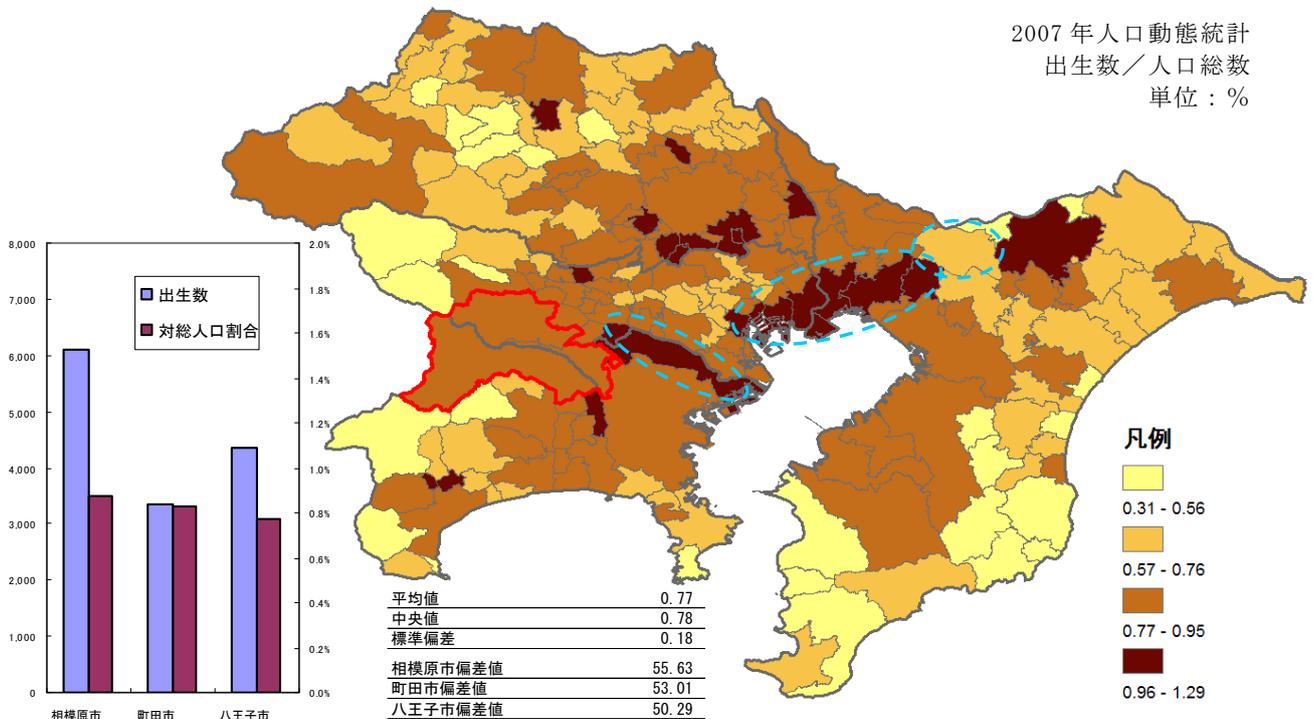
2005年国勢調査
外国人人口／人口総数
単位：%



- ・都心の商業地域（特に山手線沿線）で外国人割合が高い。
- ・工業団地のある人口の少ない地域は割合が高い。（上里町、富里市、愛川町）
- ・福生市、綾瀬市、大和市は米軍基地の影響が大きい。
- ・3市の比較では、大差なく、3市とも平均値を若干下回る。

6 出生数

2007年人口動態統計
出生数／人口総数
単位：%

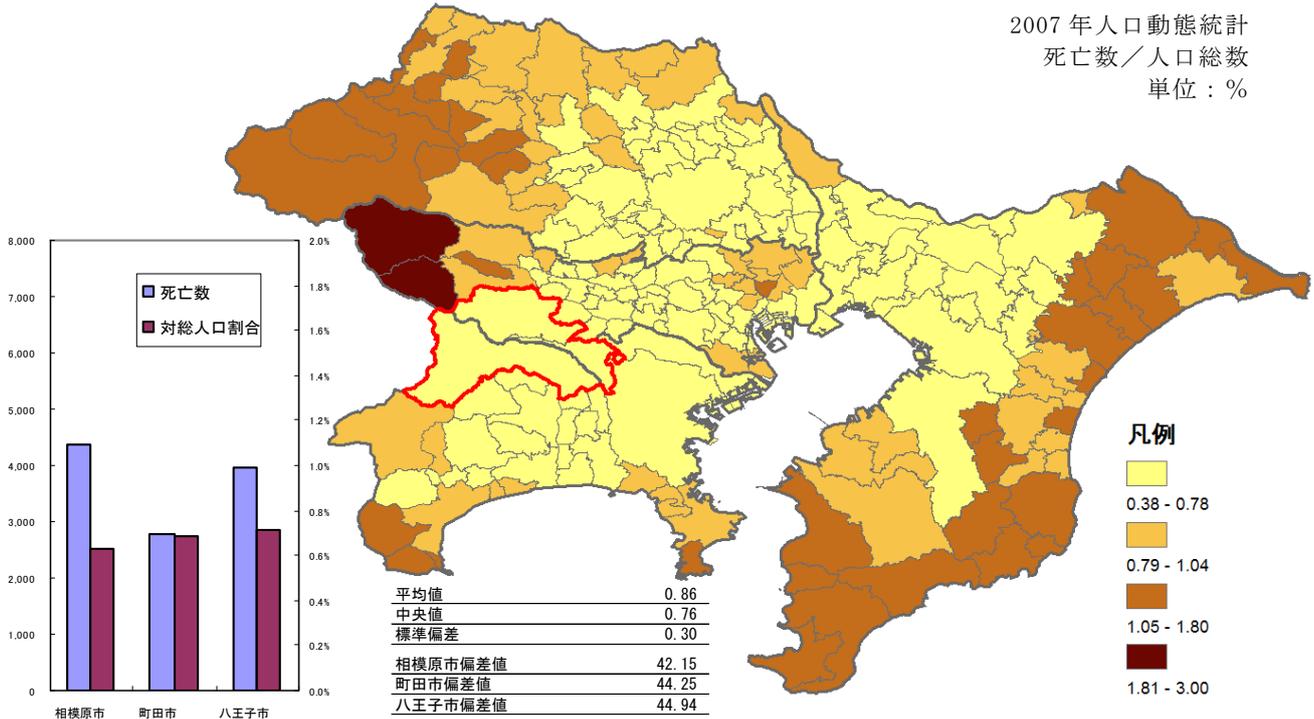


- ・出生数の多い地域は、稲城市、川崎市、八千代市、船橋市、市川市、浦安市などであり、年少人口割合の高い地域よりも都心に寄っている。
- ・千葉ニュータウンのある印西市では、年少人口割合は高いが出生数の割合は低い。
- ・3市の比較では、八王子市の割合が低い、3市とも平均値を上回っている。

【参考データ：2 15歳未満人口】

7 死亡数

2007年人口動態統計
死亡数／人口総数
単位：%

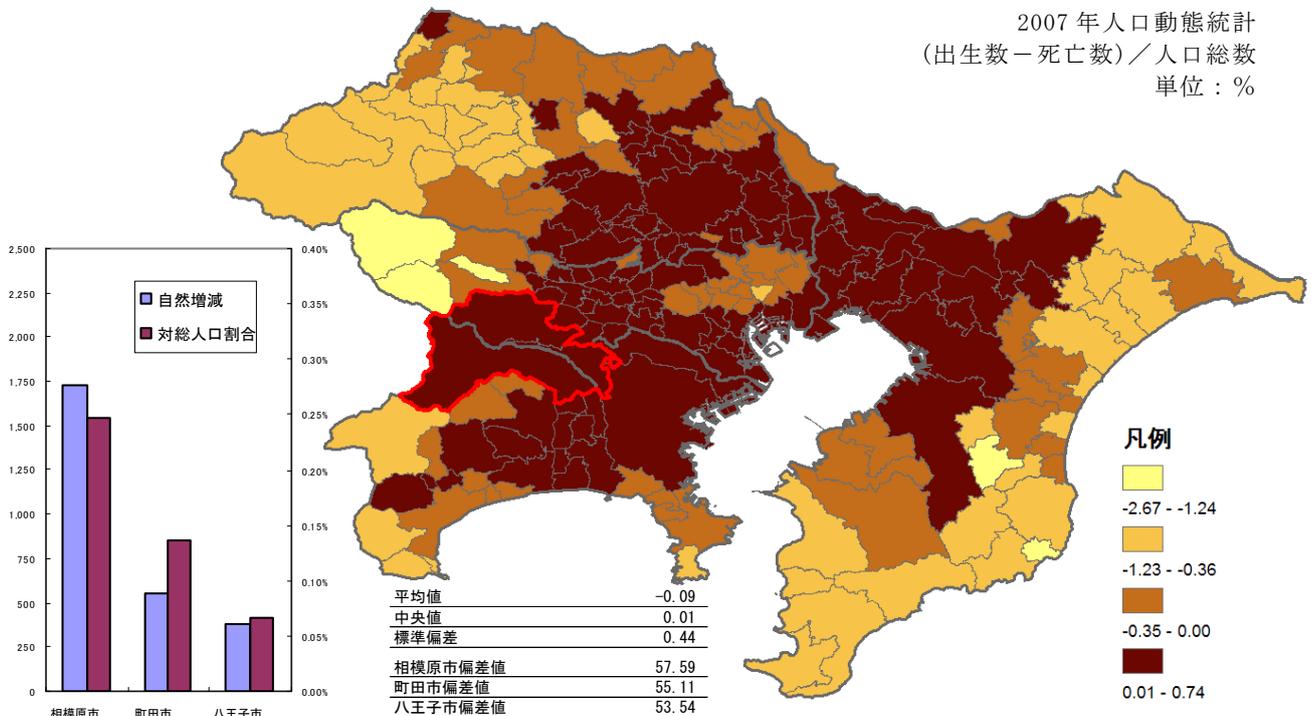


- ・ 老年人口割合の高い地域で死亡数の割合が高く、地域ごとの特徴は特に見られない。
- ・ 3市の比較では、大差なく、3市とも平均値を下回る。

【参考データ：4 65歳以上人口】

8 自然増減

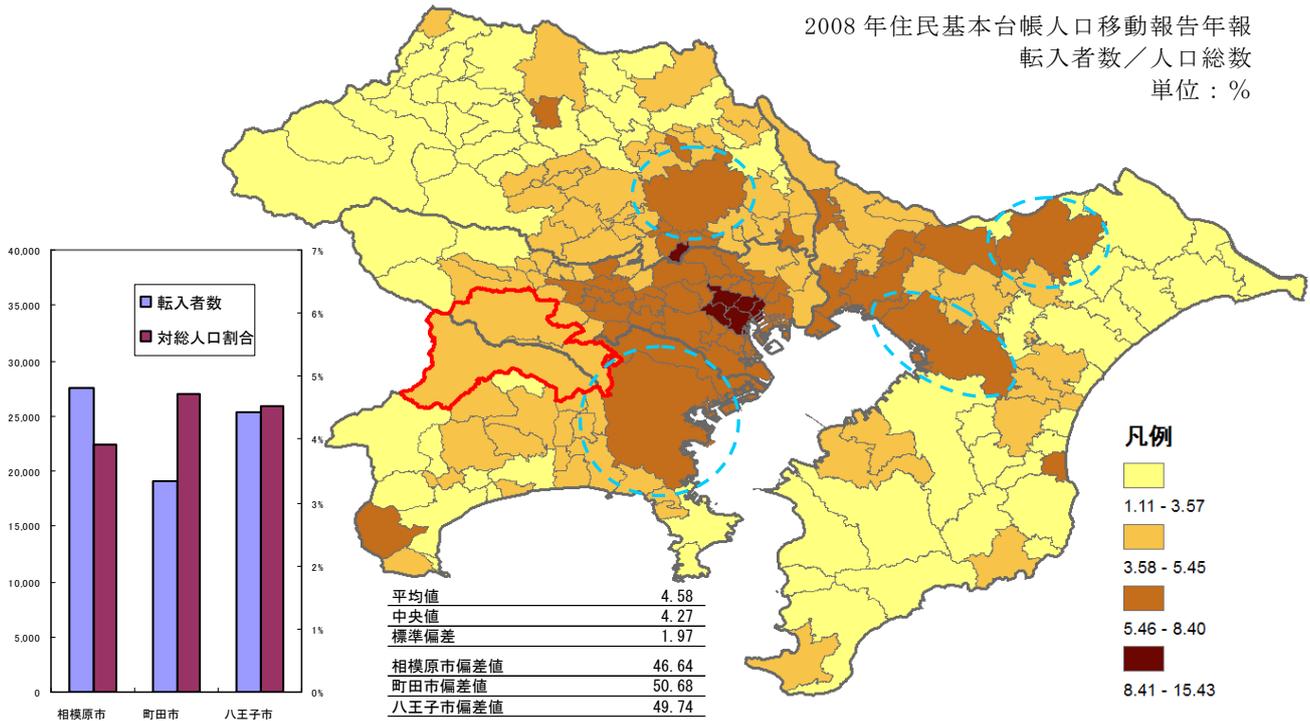
2007年人口動態統計
(出生数－死亡数)／人口総数
単位：%



- ・ 自然増減の平均値は-0.09%と、首都圏においても人口は自然減の局面に突入している。中央値は0.01であり、おおよそ半数の自治体が自然減となっている。
- ・ 自然増となっているのは、都心を取り巻く比較的新しい都市（戦後に人口が急増したと思われる地域）で、相模原市、町田市、八王子市もこれに含まれる。
- ・ 3市の比較では、相模原市が最も自然増が多いが、3市とも自然増となっている。

9 転入者数

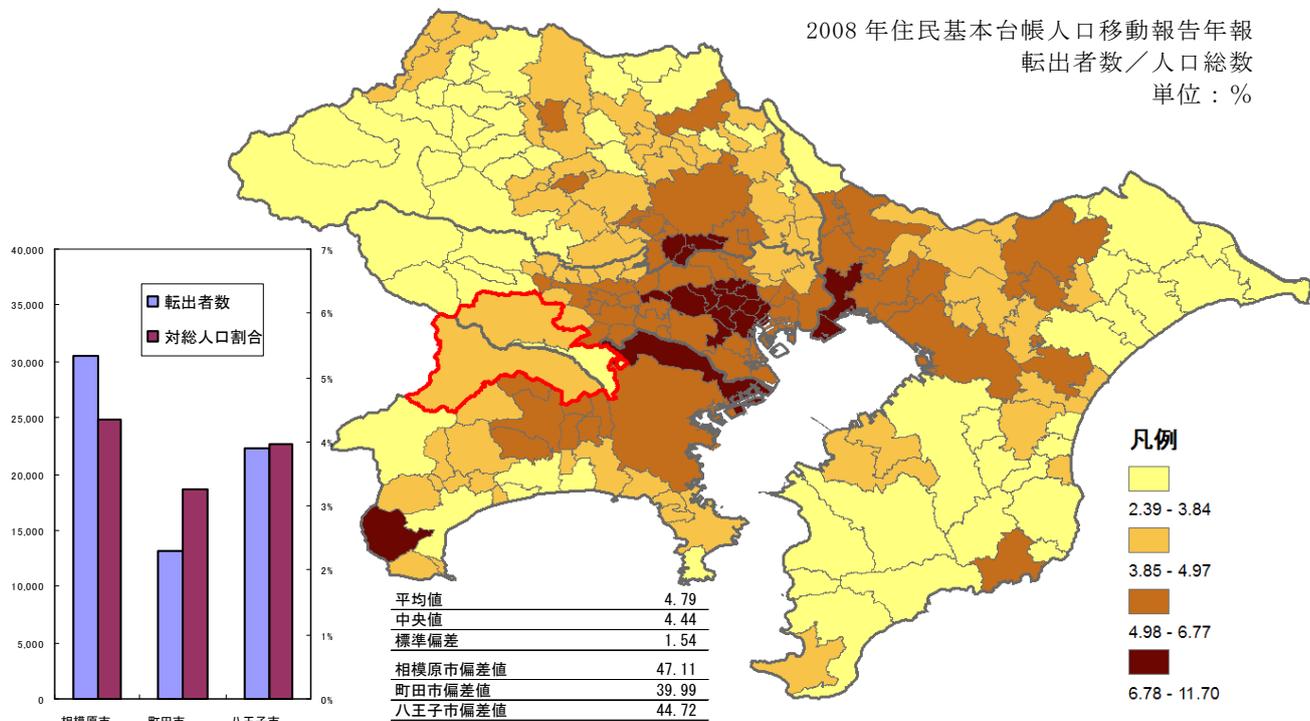
2008年住民基本台帳人口移動報告年報
転入者数／人口総数
単位：％



- ・ 23区を中心に、東京都は転入者の割合が高い。
- ・ 横浜市、さいたま市、千葉市、成田市など地域の核となる都市で割合が高い。
- ・ 3市の比較では、相模原市の割合が低い、町田市、八王子市とも平均値に近い。

10 転出者数

2008年住民基本台帳人口移動報告年報
転出者数／人口総数
単位：％

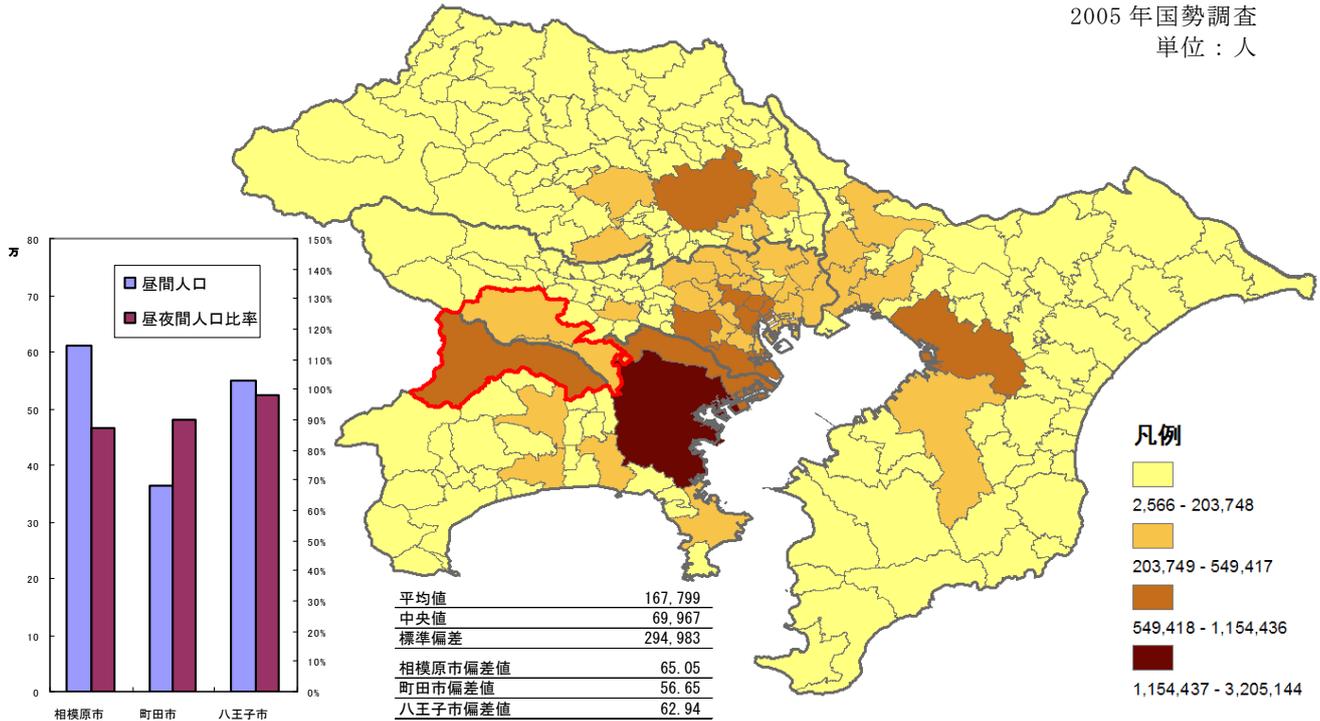


- ・ 転入者の多い地域は転出者も多く、23区や都心から比較的近い都市が人口流動の激しい地域であることがわかる。
- ・ 3市の比較では、町田市が転出者の割合が低い、相模原市、八王子市も平均値を下回っている。

【参考データ：9 転入者数】

11 昼間人口

2005年国勢調査
単位：人

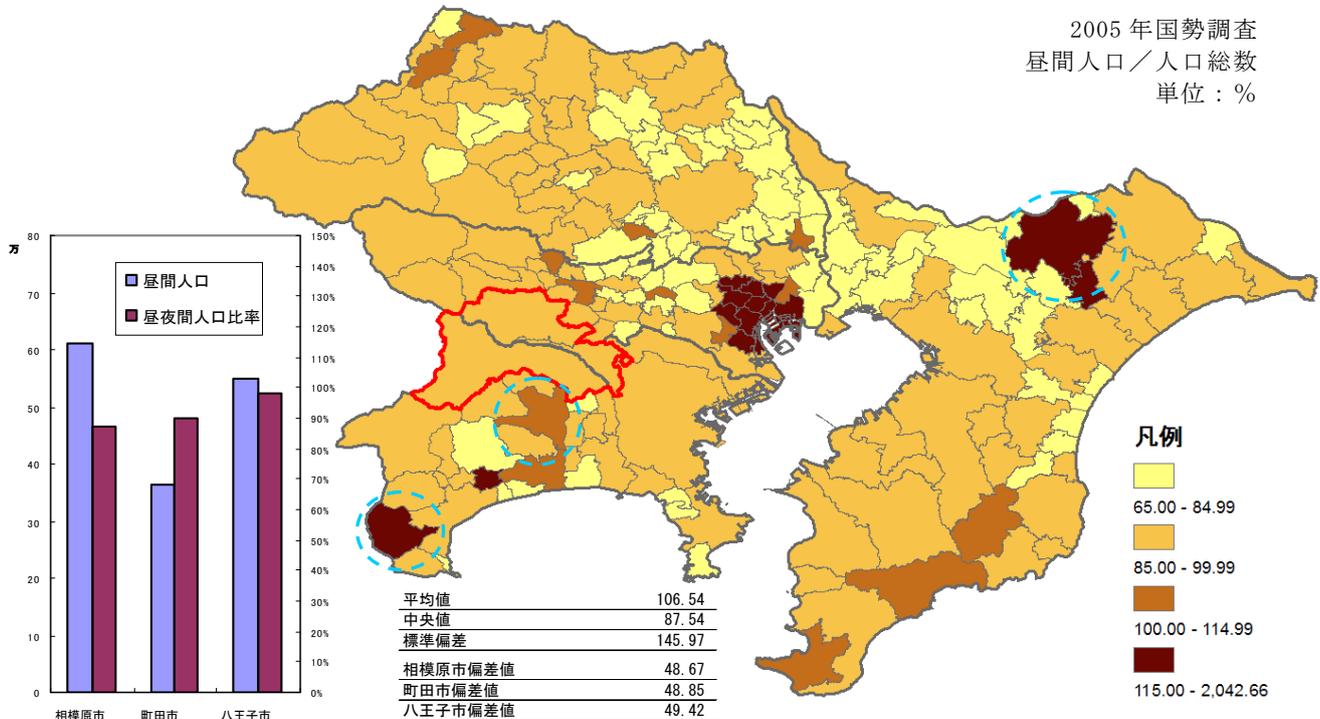


- ・人口総数の分布と比較し、より都心又は地域の中心都市への偏りがある。特に東京都は他県に比べて偏りが顕著である。
- ・3市の比較では、相模原市が多いが、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：1 人口総数】

12 昼夜間人口比率

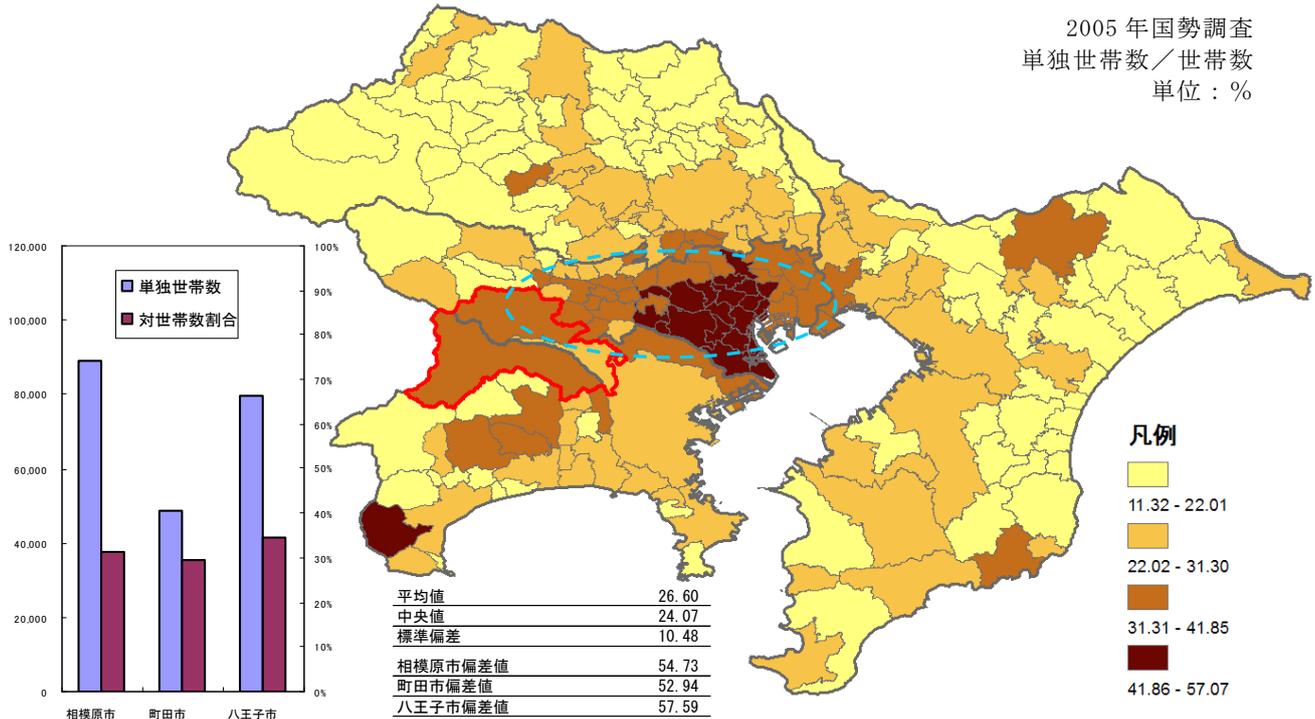
2005年国勢調査
昼間人口／人口総数
単位：%



- ・都心への通勤圏内では全体的に比率が低い。一方で、都心から一定の距離があり、工業や観光など独自の産業が盛んな自治体で100%を超える。(成田市、厚木市、箱根町など)
- ・3市の比較では、八王子市がやや高いが、3市とも100%未満となっている。

17 単独世帯数

2005年国勢調査
単独世帯数/世帯数
単位：%

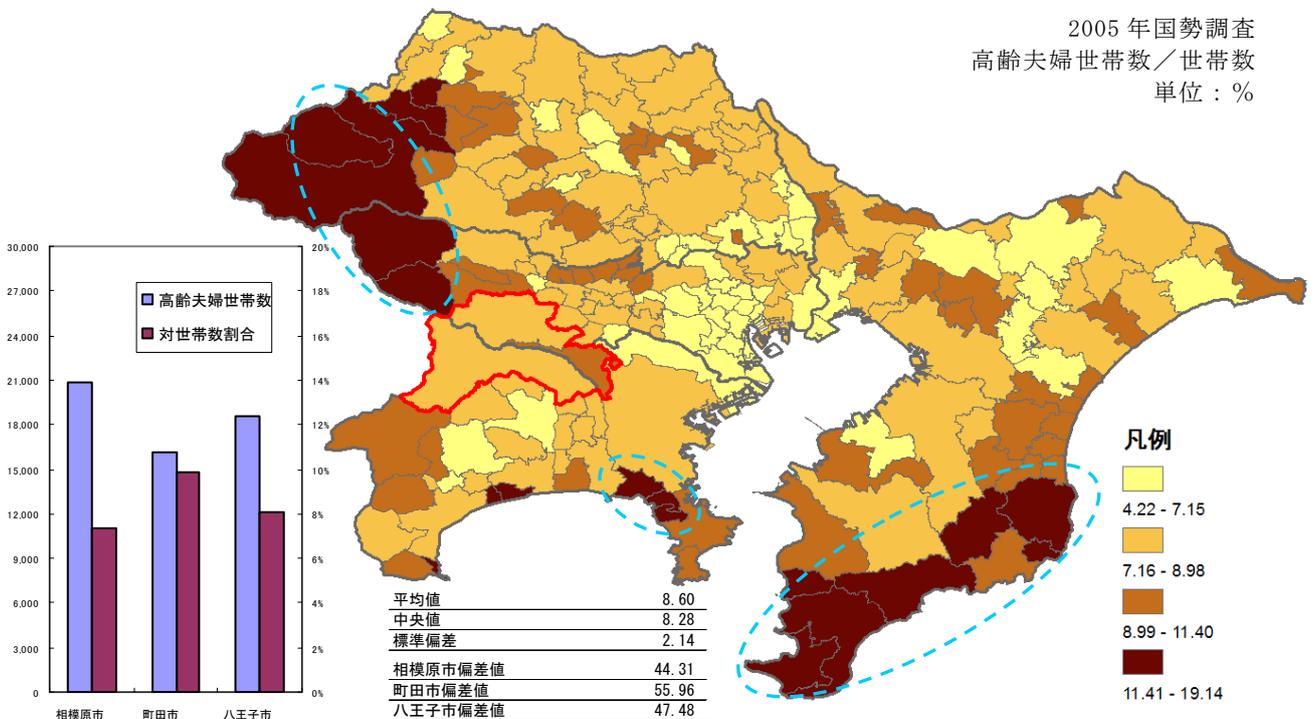


- ・昼夜間人口比率の高い地域又はその周辺の地域で単独世帯の割合が高くなる傾向があり、特に東京都は単独世帯の割合が高い。これは職場付近に一人暮らしをする者のほか、学生の数に影響を受けるためである。
- ・3市の比較では、八王子市の割合が高く、町田市の割合が低い。八王子市と相模原市は、首都圏の中でも単独世帯の多い自治体となっている。

【参考データ：12 昼夜間人口比率】

18 高齢夫婦世帯数

2005年国勢調査
高齢夫婦世帯数/世帯数
単位：%

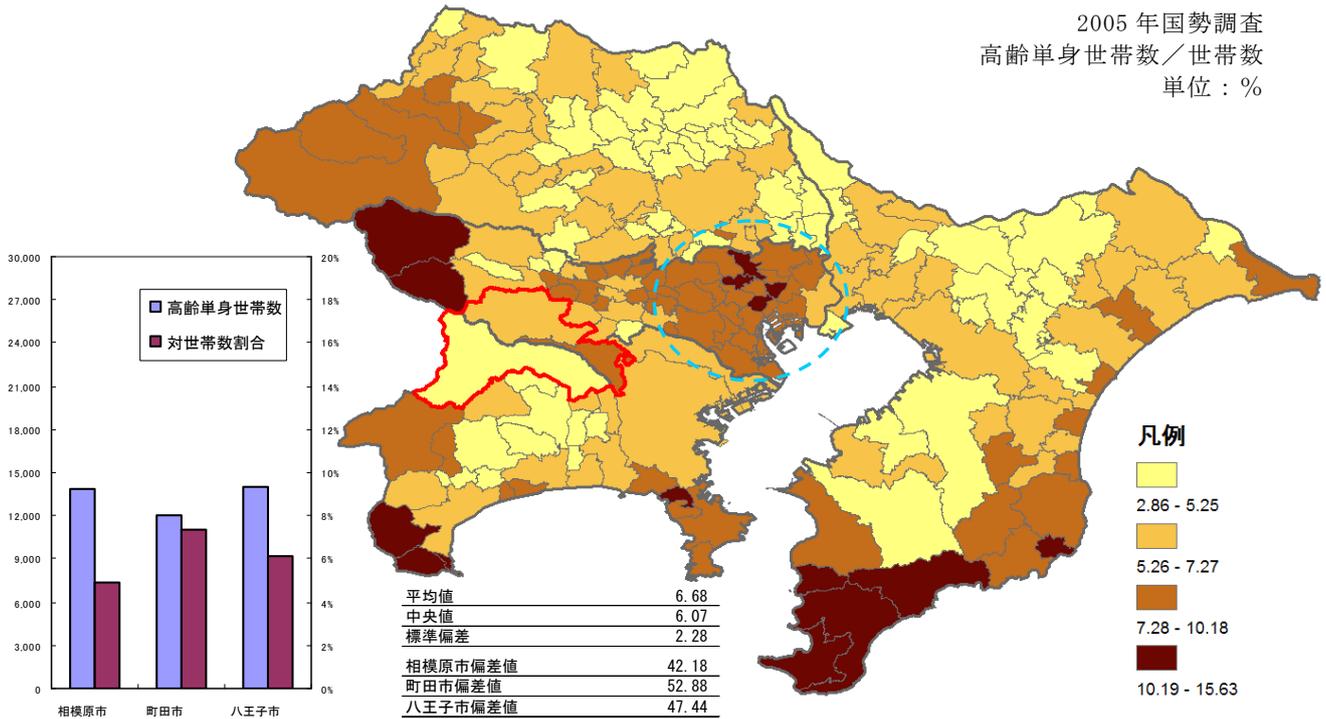


- ・65歳以上人口の比率と同様に、奥多摩、秩父、南房総などで高くなっている。
- ・鎌倉市、逗子市、葉山町では、高齢夫婦世帯の割合のほか、役員の割合、雇人のある業主の割合などが高く、納税義務者1人あたりの課税対象所得も高いという特徴がある。
- ・3市の比較では、町田市の割合が高く平均値を超えている一方、相模原市と八王子市は平均値を下回る。

【参考データ：4 65歳以上人口、25 課税対象所得、64 役員数、65 雇人のある業主数】

19 高齢単身世帯数

2005年国勢調査
 高齢単身世帯数／世帯数
 単位：%

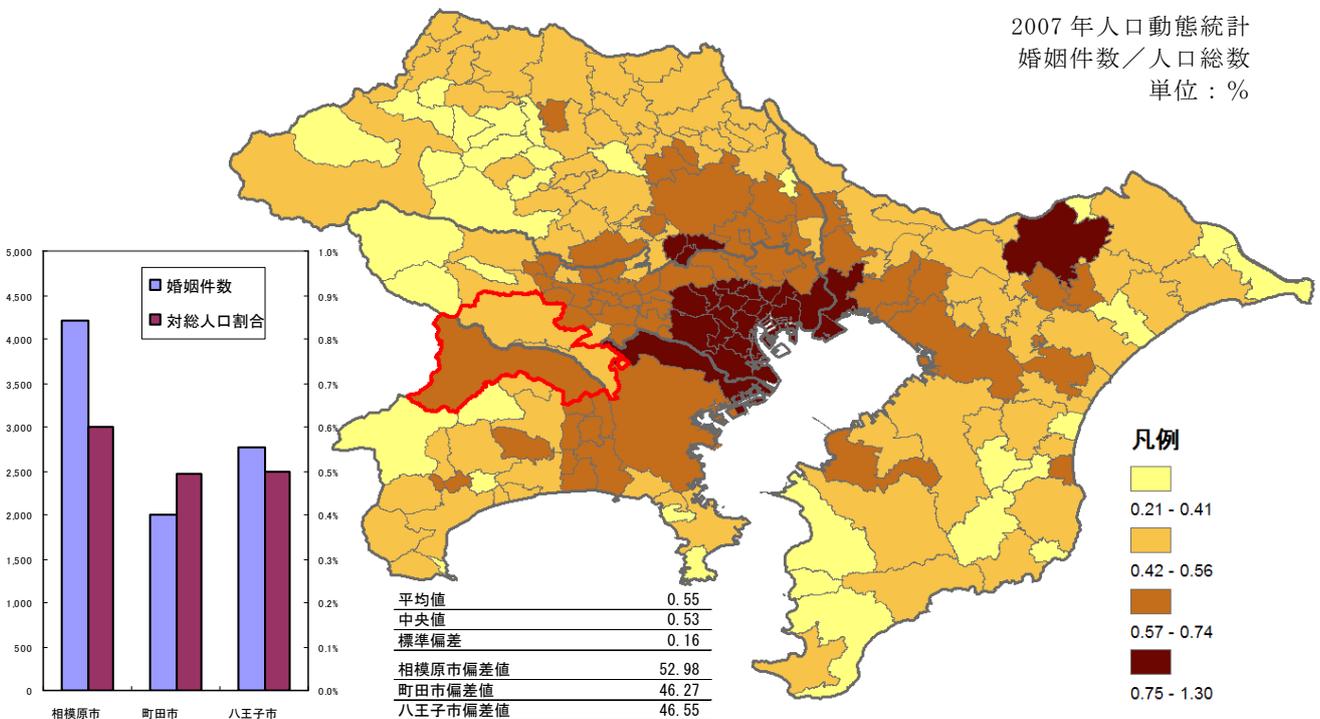


- ・ 老年人口のやや多い23区では、高齢夫婦世帯の割合が少ない一方で、高齢単身世帯の割合が高い。
- ・ 3市の比較では、町田市の割合が高く、相模原市の割合が低い。町田市は東京都心に近い傾向の地域、相模原市と八王子市は今後急速に高齢化する地域と言える。

【参考データ：4 65歳以上人口、7 死亡数、18 高齢夫婦世帯数】

20 婚姻件数

2007年人口動態統計
 婚姻件数／人口総数
 単位：%

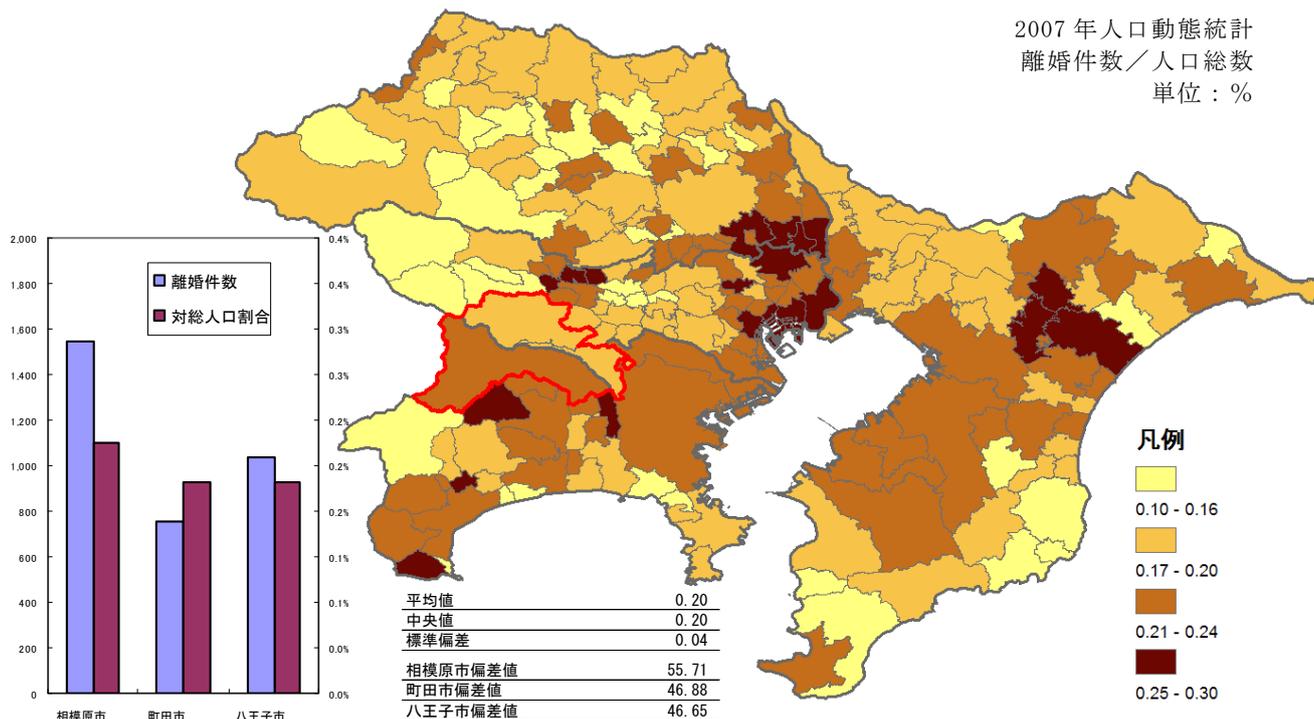


- ・ 単身世帯が多く、かつ納税義務者数も多い都心で婚姻件数も多い。
- ・ 3市の比較では、相模原市の割合が高く平均値を上回るが、町田市、八王子市は平均値を下回る。

【参考データ：3 15～64歳人口、17 単身世帯数、26 納税義務者数】

21 離婚件数

2007年人口動態統計
離婚件数／人口総数
単位：％

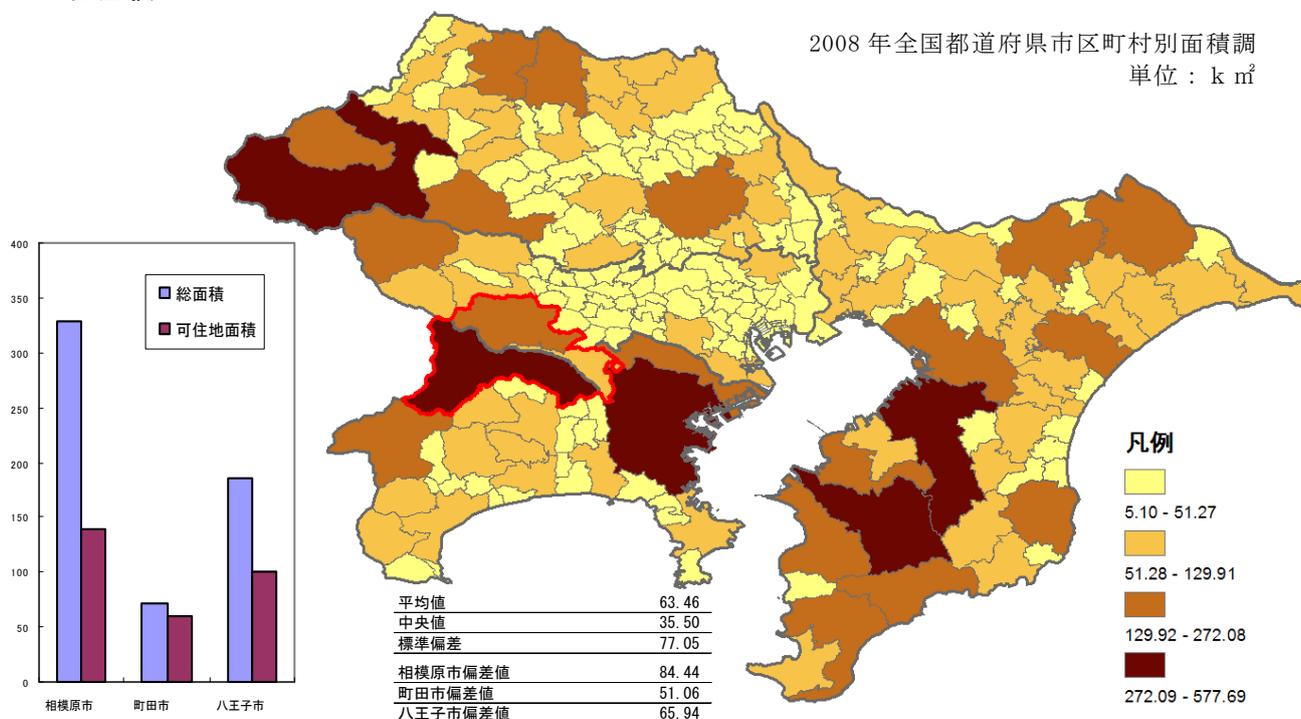


- ・婚姻件数の多い市区町村で離婚件数も多くなる傾向があるが、東京都ではやや割合が低くなっている。
- ・3市の比較では、婚姻件数の多い相模原市が離婚件数も多く、平均値を上回るが、町田市、八王子市は平均値を下回る。

【参考データ：20 婚姻件数】

22 総面積

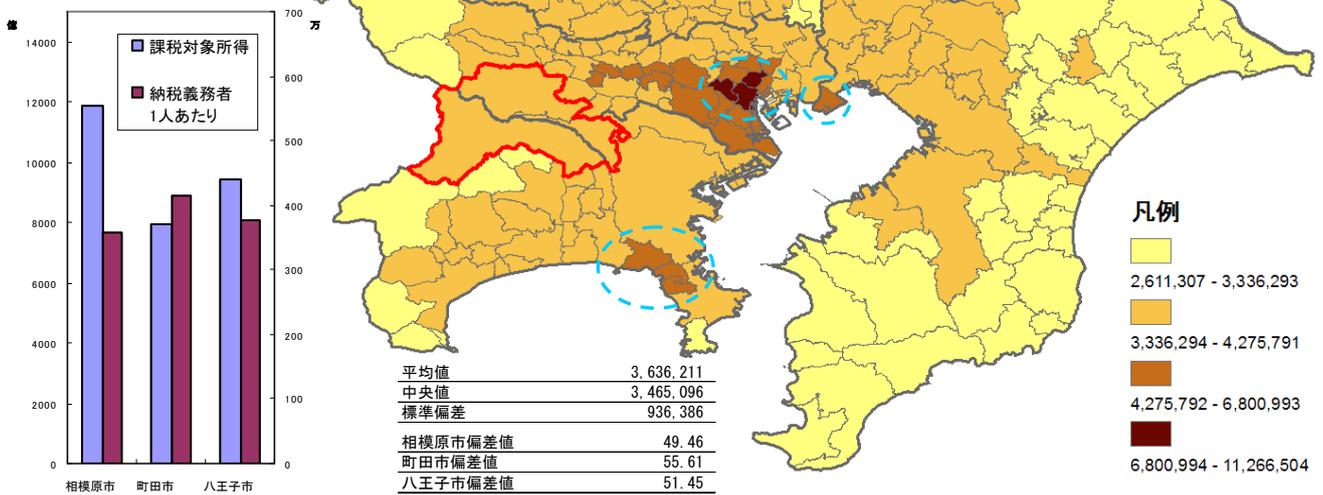
2008年全国都道府県市区町村別面積調
単位：k m²



- ・1都3県のうち、総面積の大きい自治体は上位から、1位：秩父市、2位：横浜市、3位：市原市、4位：相模原市、5位：君津市である。全国の市区町村の総面積の平均値は215.9k m²であり、この地域でこれを超えるのは、さいたま市、千葉市、南房総市、香取市、奥多摩町、山北町を加えた11自治体のみである。
- ・3市の比較では、相模原市が大きく、町田市が小さいが、町田市は1都3県の地域では平均的である。

25 課税対象所得

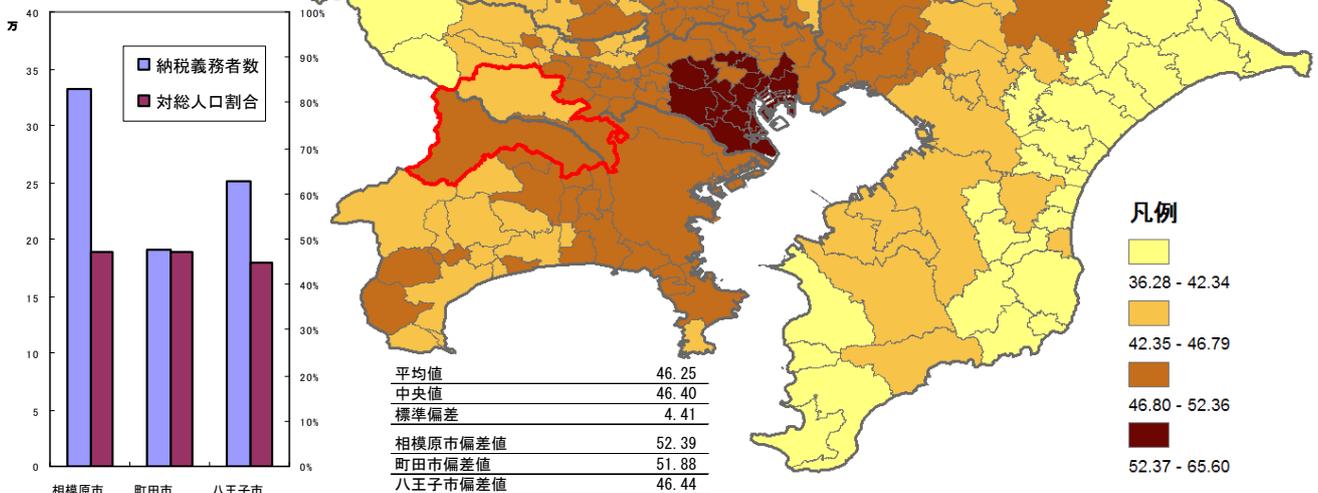
2008年市町村税課税状況等の調査
課税対象所得／納税義務者数
単位：円



- 千代田区、港区、渋谷区とその周辺の地域で納税義務者一人あたりの課税対象所得が高い。特に港区では1,000万円を超える。東京都以外では、浦安市、鎌倉市、逗子市、葉山町が高いのが特徴的である。
- 3市の比較では、町田市が高く、相模原市が低い。

26 納税義務者数

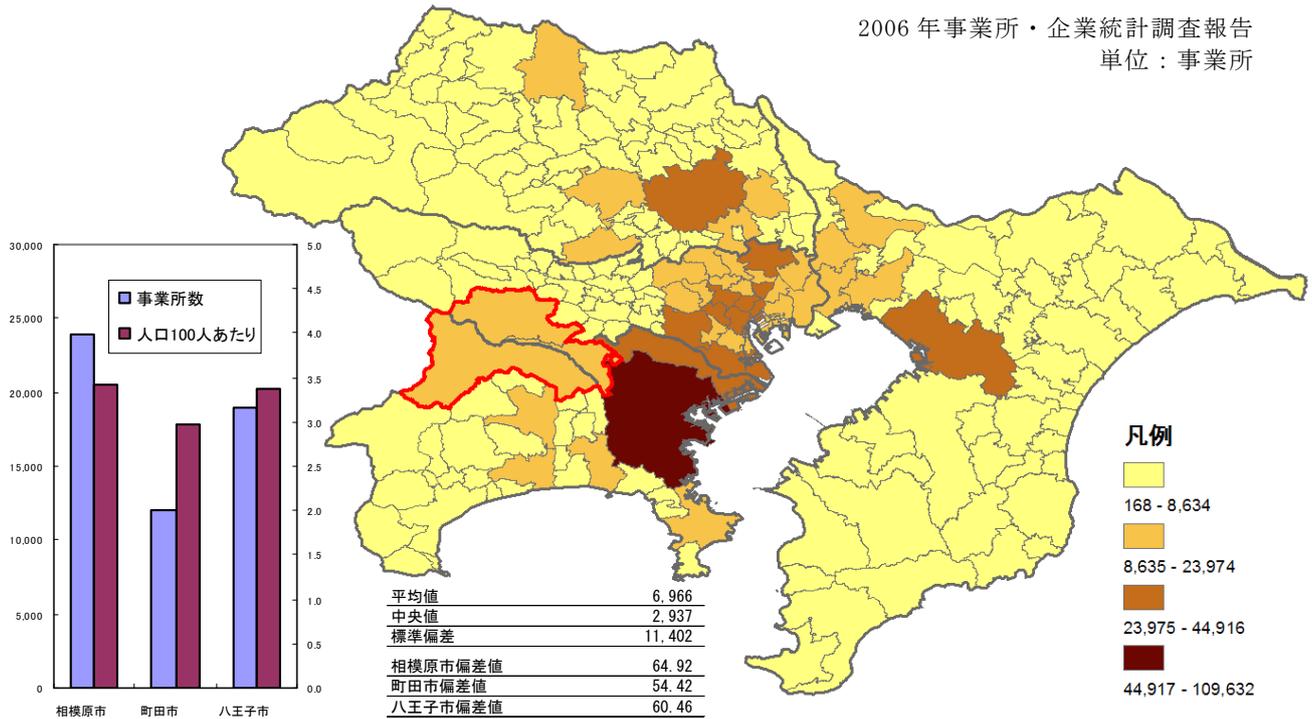
2008年市町村税課税状況等の調査
納税義務者数／人口総数
単位：%



- 都心に近づくほど、納税義務者の割合が高い傾向である。
- 3市の比較では、八王子市の割合が低く、平均値を下回る。相模原市、町田市は平均値を若干上回る。
【参考データ：3 15～64歳人口、17 単独世帯数】

27 事業所数

2006年事業所・企業統計調査報告
単位：事業所

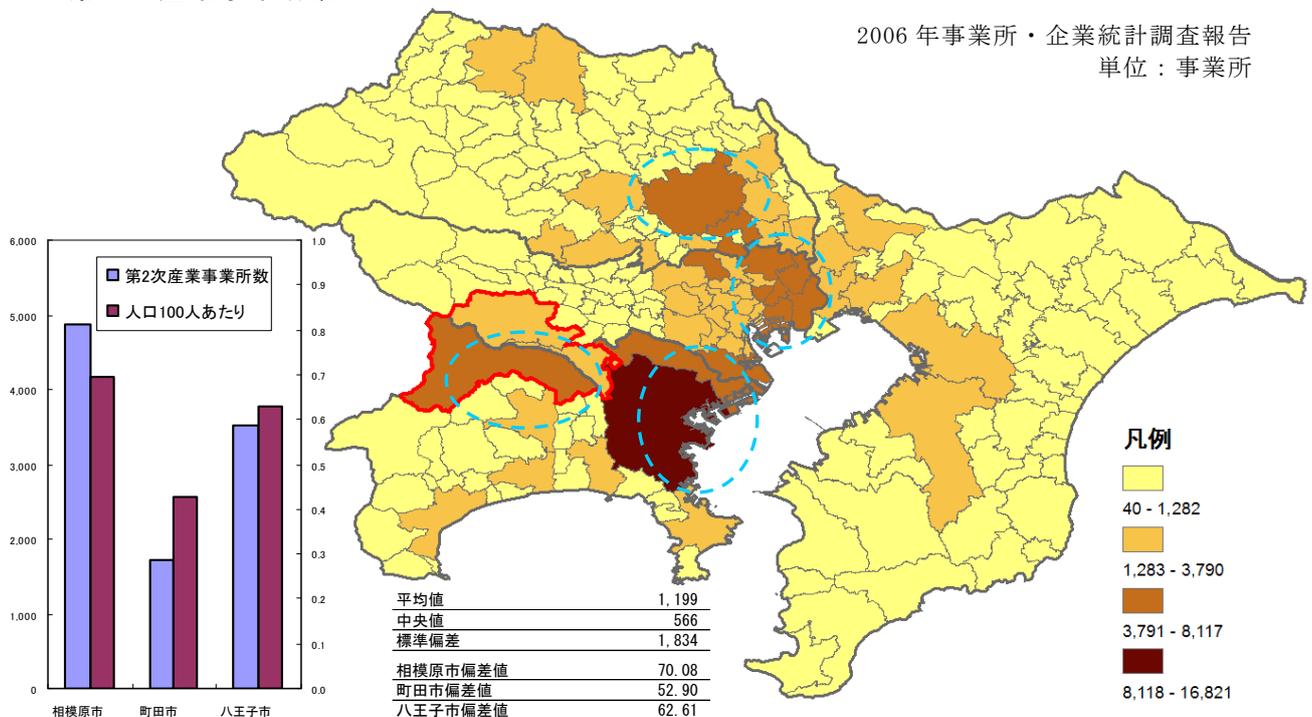


- ・1都3県の全事業所に占める第3次産業事業所の割合は約83%である。よって、事業所数の分布は第3次産業事業所の分布とほぼ同様となる。

【参考データ：29 第3次産業事業所数】

28 第2次産業事業所数

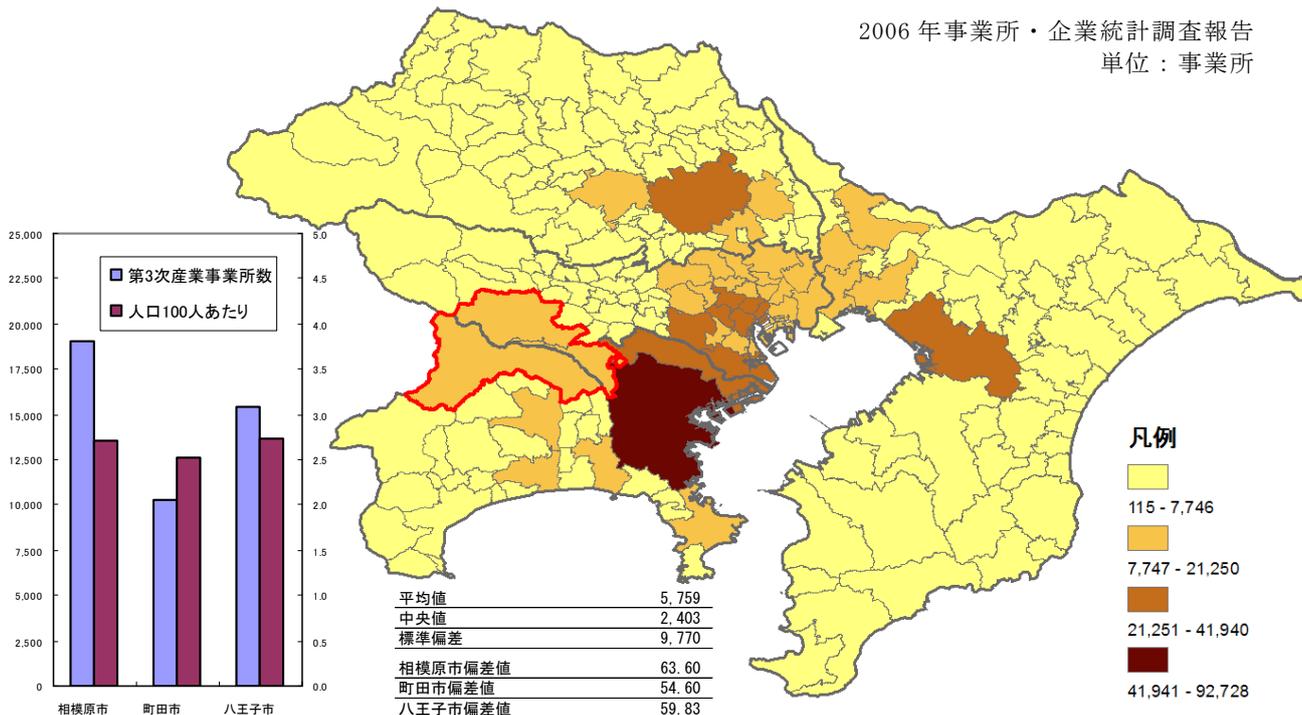
2006年事業所・企業統計調査報告
単位：事業所



- ・京浜工業地帯の大田区、川崎市、横浜市のほか、足立区、葛飾区、江戸川区などの荒川周辺、さいたま市、相模原市などの内陸工業地帯に第2次産業事業所が集中している。
- ・3市の比較では、相模原市が多く、町田市が少ない。

29 第3次産業事業所数

2006年事業所・企業統計調査報告
単位：事業所

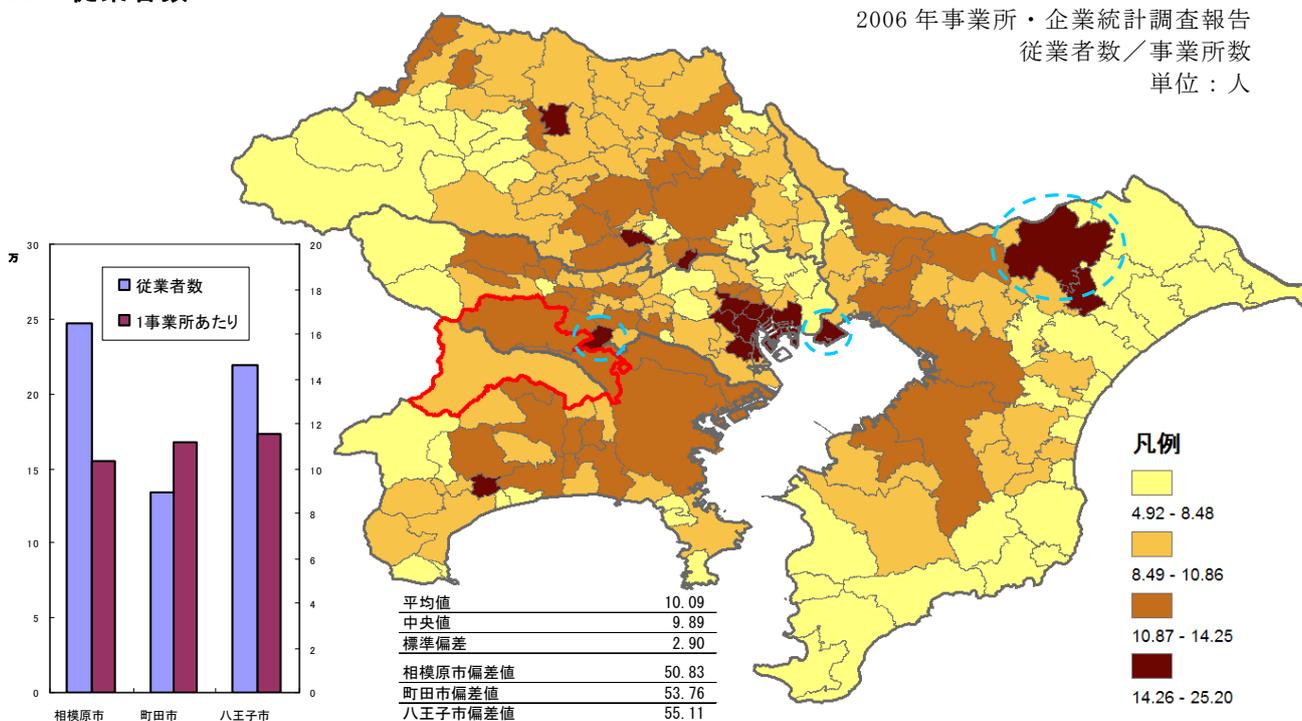


- ・人口の分布に比べ、より大都市寄り、東京寄りの分布となっており、昼間人口の分布と同様の傾向である。
- ・3市の比較では、人口100人あたりの事業所数に換算しても町田市が少ないが、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：1 人口総数、11 昼間人口】

30 従業者数

2006年事業所・企業統計調査報告
従業者数／事業所数
単位：人

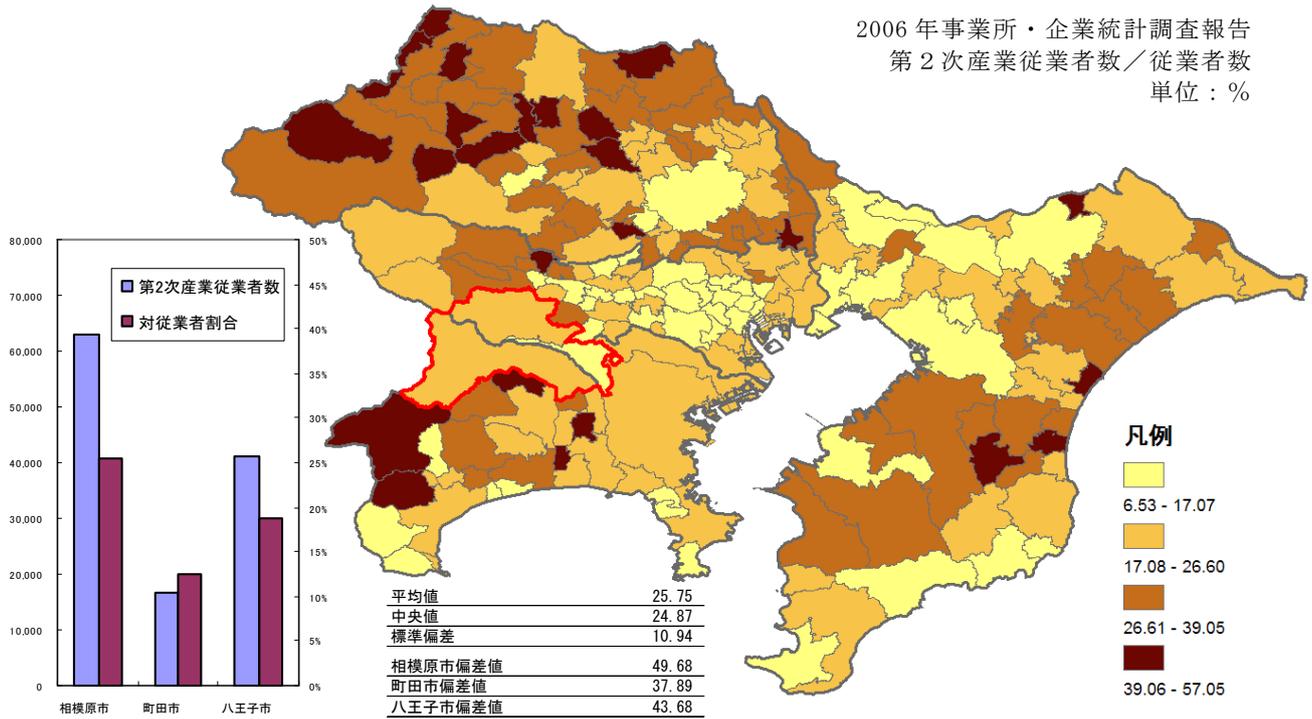


- ・1事業所あたりの従業者数をみると、本社機能が集まる都心に従業者数の多い事業所が集中している。
- ・事業所が少ないものの、1事業所あたりの従業者数が多い地域がある。(浦安市、成田市、多摩市など)
- ・3市の比較では、町田市、八王子市は1事業所あたりの従業者が多く、相模原市は少ない。

【参考データ：27 事業所数】

31 第2次産業従業者数

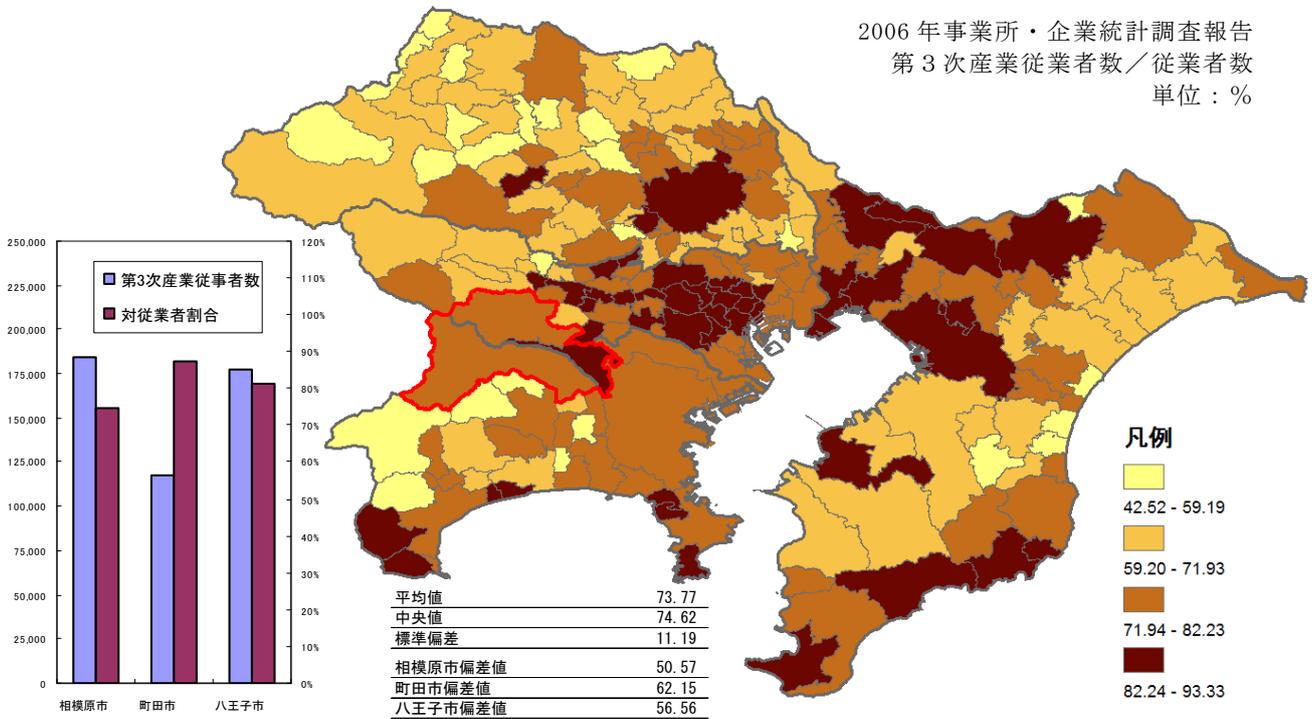
2006年事業所・企業統計調査報告
第2次産業従業者数／従業者数
単位：%



- ・地域の中核を担う大規模事業所や工業団地の存在により、第2次産業従業者の割合が高くなっている地域が点在する。
- ・3市の比較では、相模原市の割合が高く、八王子市、町田市の割合が低い。相模原市は第2次産業従業者と第3次産業従業者の割合がほぼ平均値であるのに対し、町田市は大きく第3次産業に偏っている。
【参考データ：32 第3次産業従業者数】

32 第3次産業従業者数

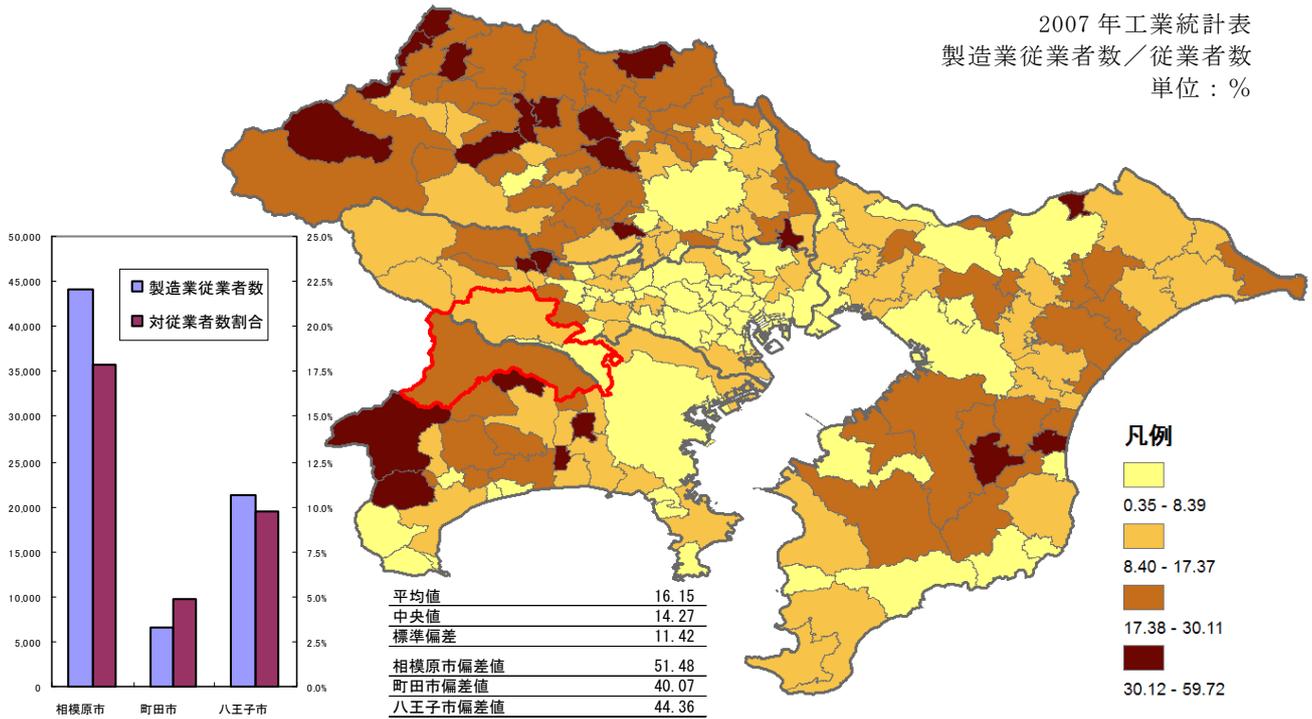
2006年事業所・企業統計調査報告
第3次産業従業者数／従業者数
単位：%



- ・都心への通勤圏では、地価が高いこともあり、新たな第2次産業事業所の立地が難しく、全体としては第3次産業の割合が高くなっている。
- ・3市の比較では、町田市、八王子市の割合が高く、相模原市の割合が低い。相模原市は第2次産業従業者と第3次産業従業者の割合がほぼ平均値であるのに対し、町田市は大きく第3次産業に偏っている。
【参考データ：31 第2次産業従業者数】

35 製造業従業者数

2007年工業統計表
製造業従業者数／従業者数
単位：％

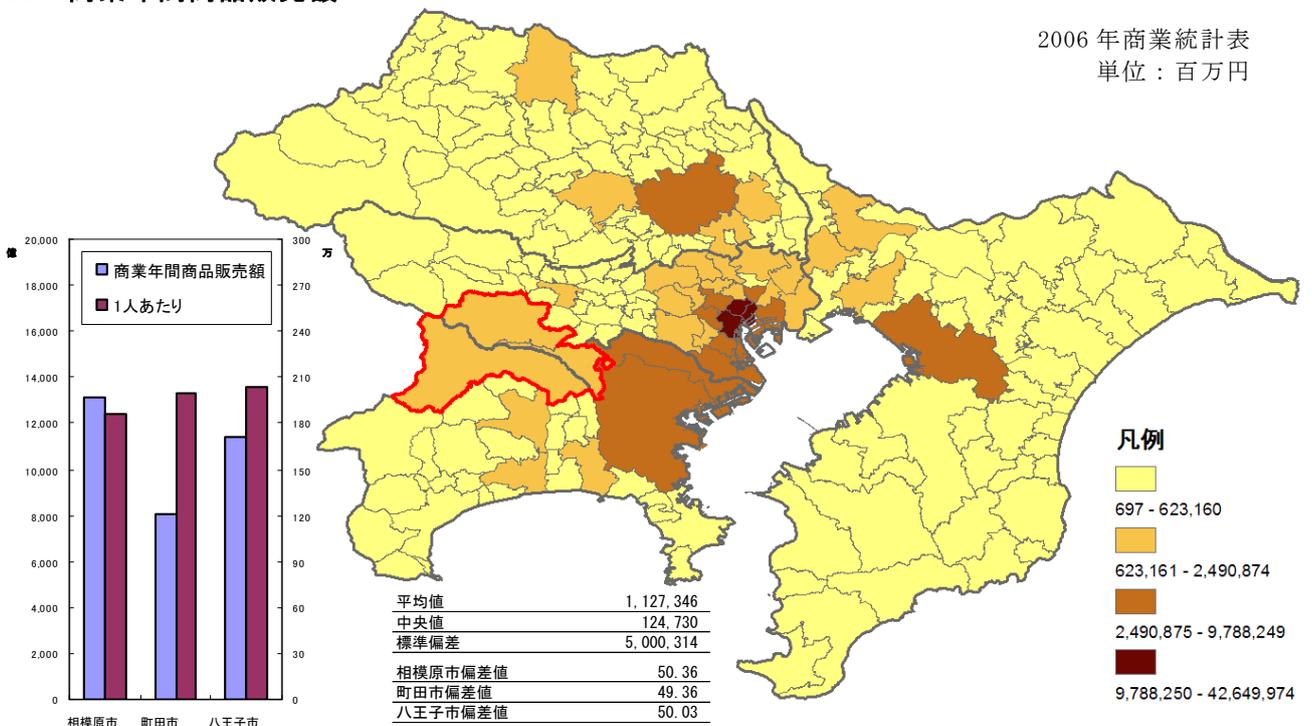


- ・第2次産業従業者の割合の分布とはほぼ同様の傾向であるが、鉱業、建設業を除くことで、ゼネコンやハウスメーカーなどの本社が多く立地する都心周辺ではより割合が低くなっている。
- ・3市の比較では、相模原市の割合が高く、町田市、八王子市の割合が低い。

【参考データ：31 第2次産業従業者数】

36 商業年間商品販売額

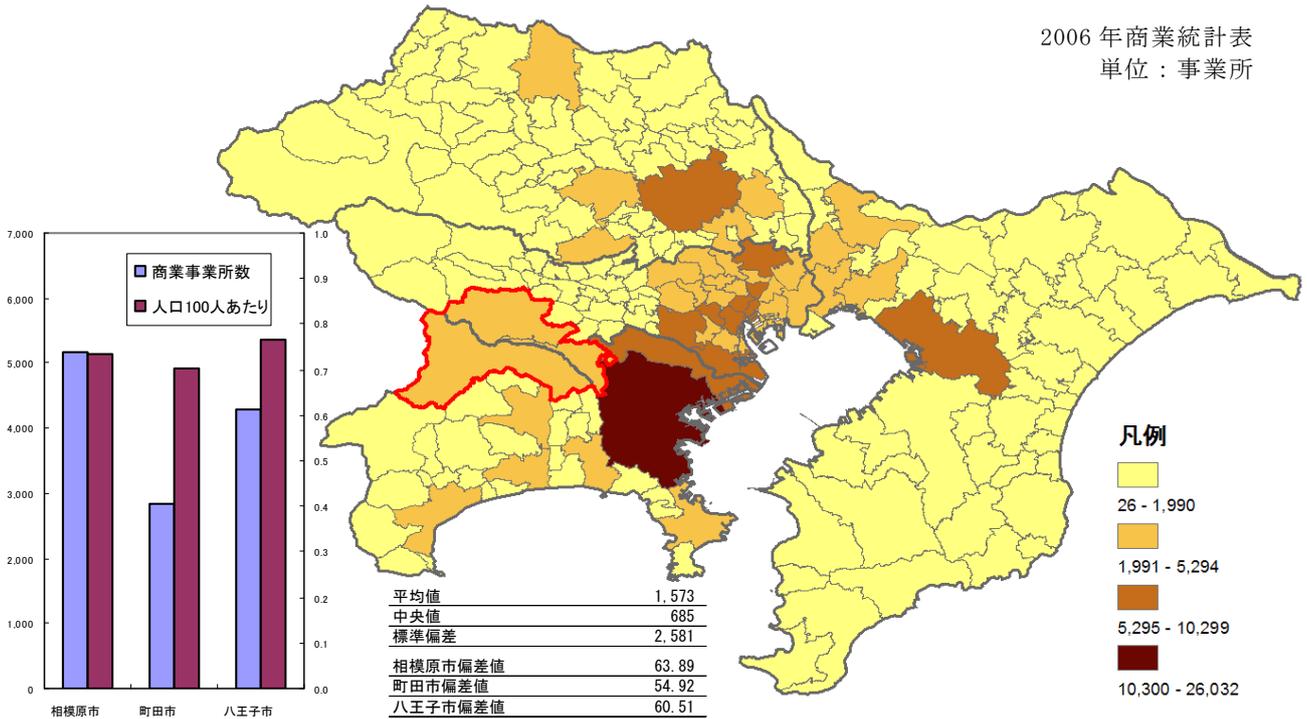
2006年商業統計表
単位：百万円



- ・商社の本社が多く立地する千代田区、中央区、港区が群を抜いて高いほか、横浜市、川崎市、さいたま市、千葉市などの大都市への偏りが大きい。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値に近い。

37 商業事業所数

2006年商業統計表
単位：事業所

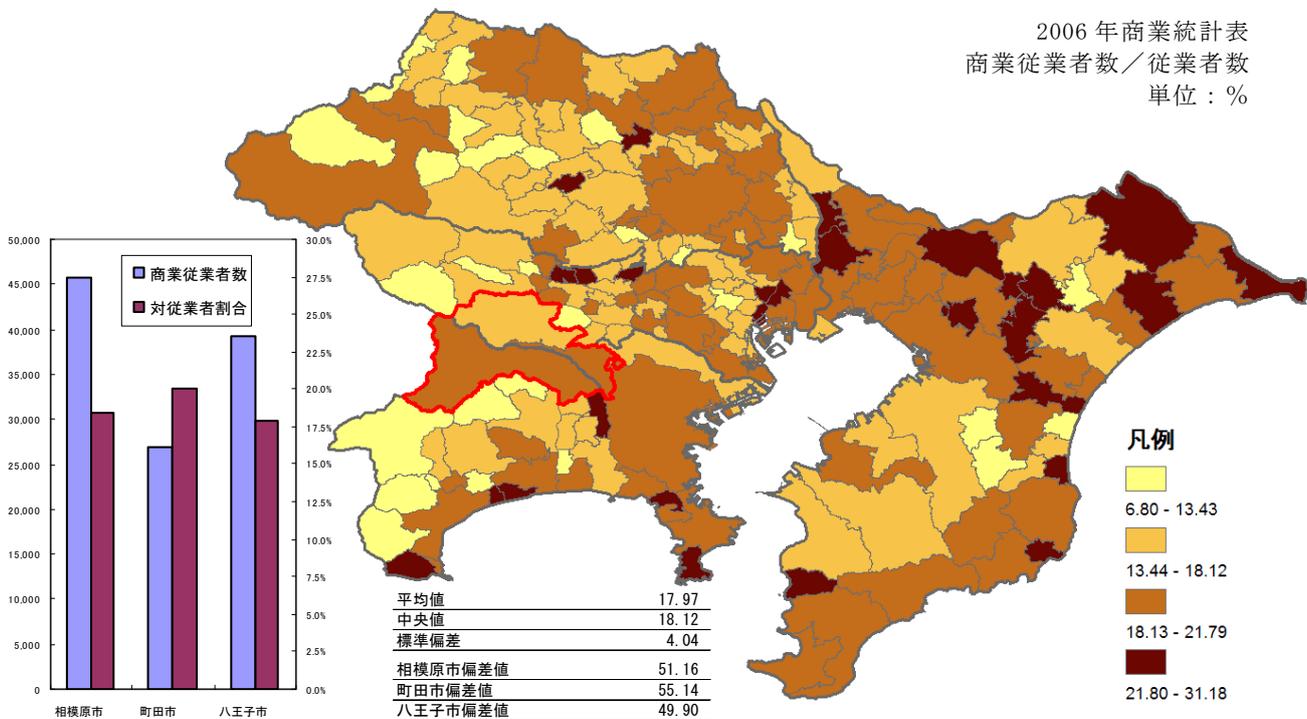


- ・商業年間商品販売額は事業所の規模により偏りが生じるが、事業所数はほぼ昼間人口と同様の分布である。
- ・3市の比較では、相模原市の事業所数が多いが、人口100人あたりに換算すると八王子市の事業所数が多い。

【参考データ：11 昼間人口、36 商業年間商品販売額】

38 商業従業者数

2006年商業統計表
商業従業者数／従業者数
単位：%

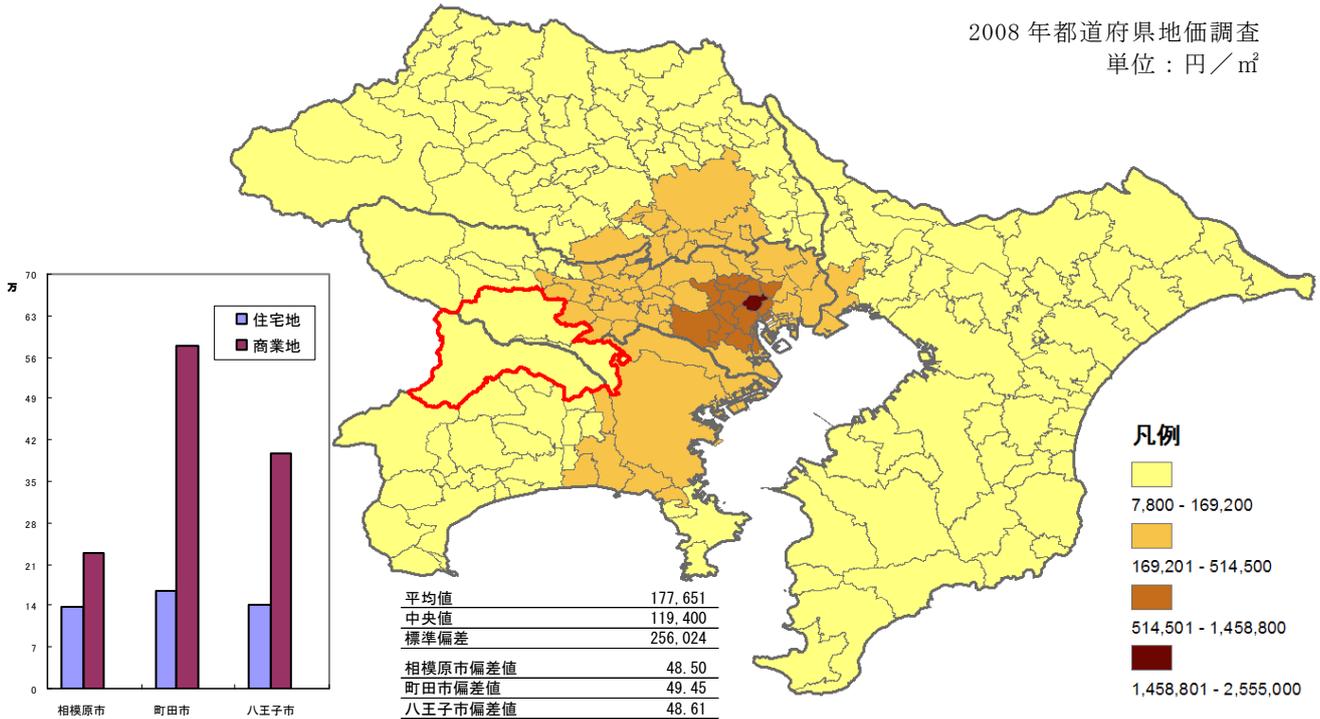


- ・商業事業所は昼間人口に応じて大きな偏りなく存在するため、商業従業者の割合も大きな偏りはない。
- ・3市の比較では、町田市の割合が高く、相模原市、八王子市は平均値に近い。

【参考データ：11 昼間人口、37 商業事業所数】

39 標準価格(平均価格)(住宅地)

2008年都道府県地価調査
単位：円/㎡

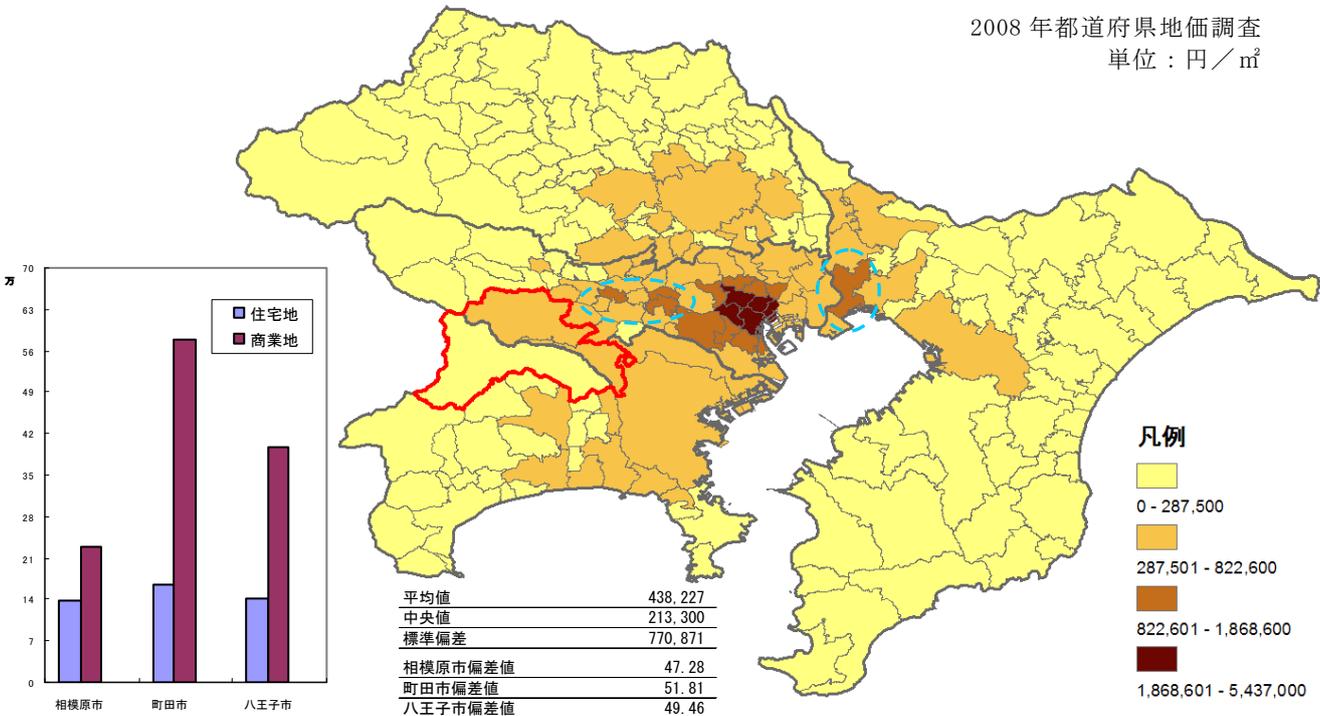


- ・ 都心に近いほど価格が高い。平均値に対して中央値が低く、価格の高い都心とそれ以外の地域での格差が大きいことがわかる。
- ・ 3市の比較では、大差なく、いずれも平均値をやや下回る。

【参考データ：24 可住地人口密度】

40 標準価格(平均価格)(商業地)

2008年都道府県地価調査
単位：円/㎡

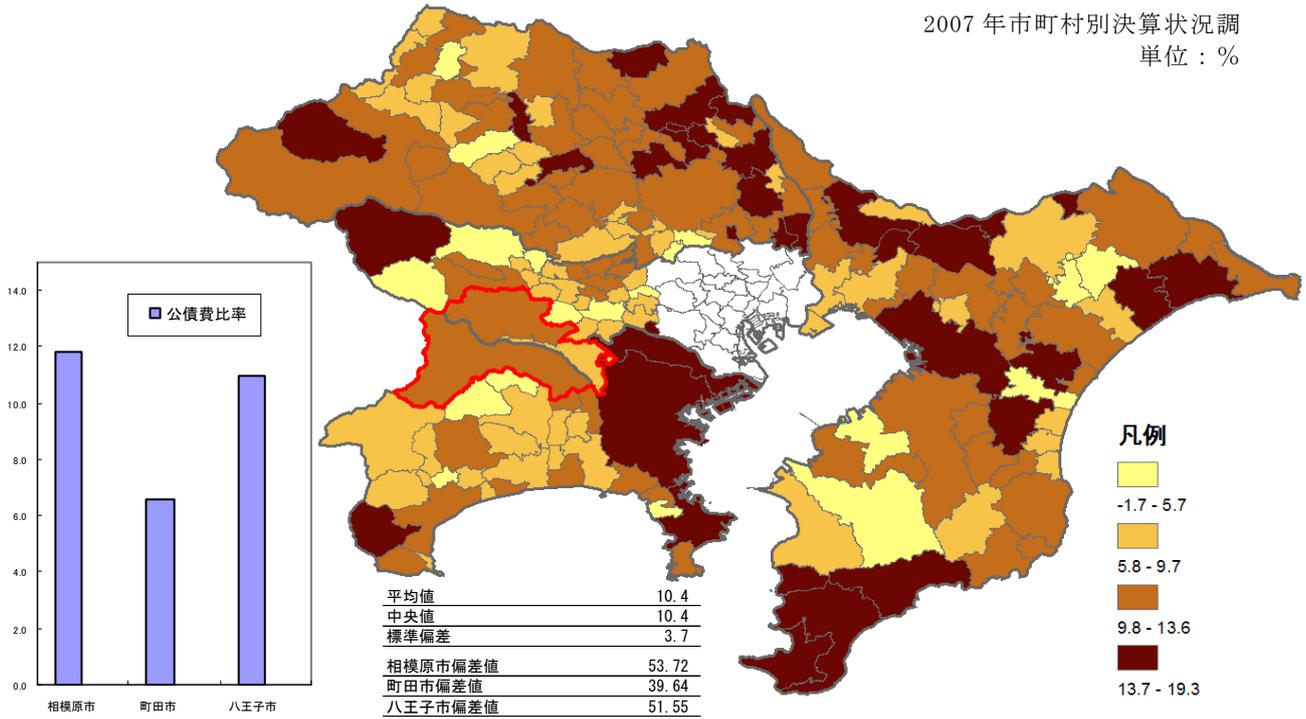


- ・ 都心が高い点は住宅地と共通だが、横浜市、さいたま市、千葉市などの拠点性の高い地域のほか、三鷹市、武蔵野市、国分寺市、市川市などへも価格の高いエリアが分散している。
- ・ 3市の比較では、町田市が高く、相模原市が低い。

【参考データ：39 標準価格(平均価格)(住宅地)】

43 公債費比率

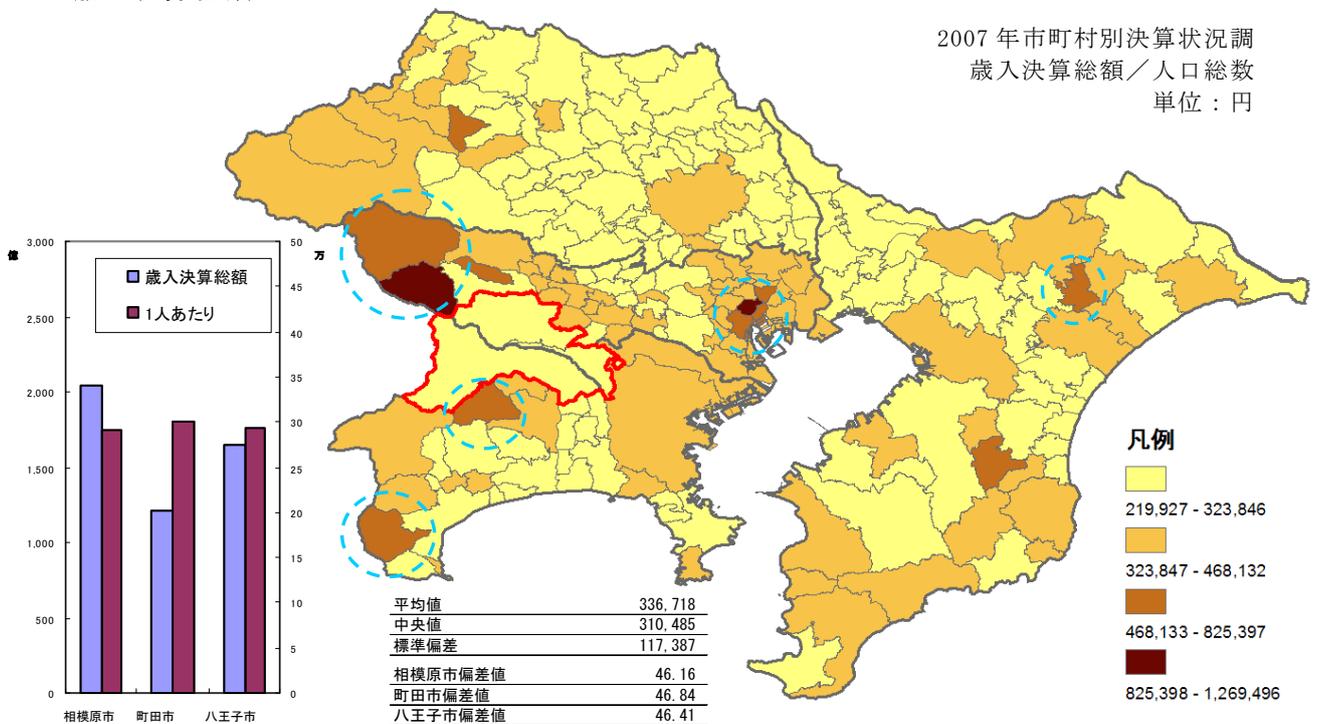
2007年市町村別決算状況調
単位：%



- ・各自治体の財政運営次第で数値が変わるため、地域による偏りは見られない。(23区はデータなし。)
- ・3市の比較では、町田市が低く、相模原市、八王子市は平均値をやや上回る。

44 歳入決算総額

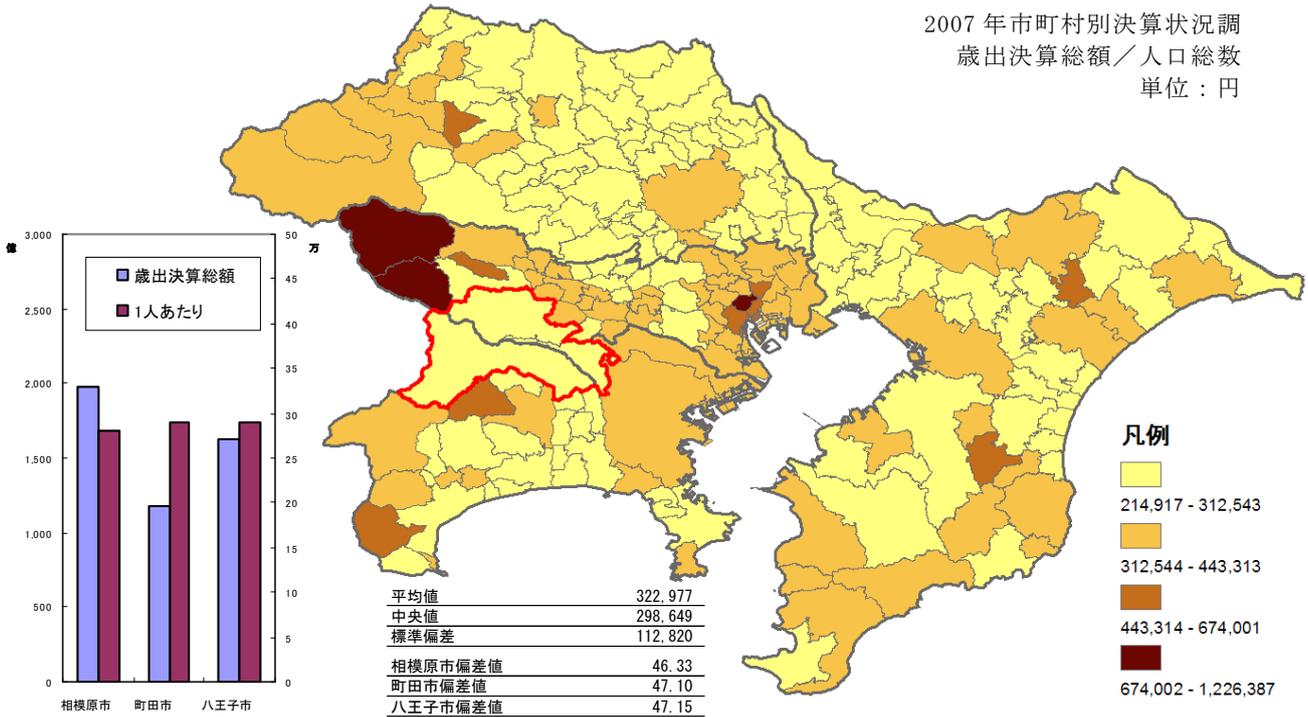
2007年市町村別決算状況調
歳入決算総額／人口総数
単位：円



- ・住民1人あたりの額で見ると、昼間人口の多い市区町村の額が高い。(千代田区、中央区、港区、台東区、箱根町、芝山町等)
 - ・人口が少ない市町村では住民1人あたりの交付金等の額が多く、額が高い。(奥多摩町、檜原村、清川村等)
 - ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回る。
- 【参考データ：11 昼間人口】

45 歳出決算総額

2007年市町村別決算状況調
歳出決算総額／人口総数
単位：円

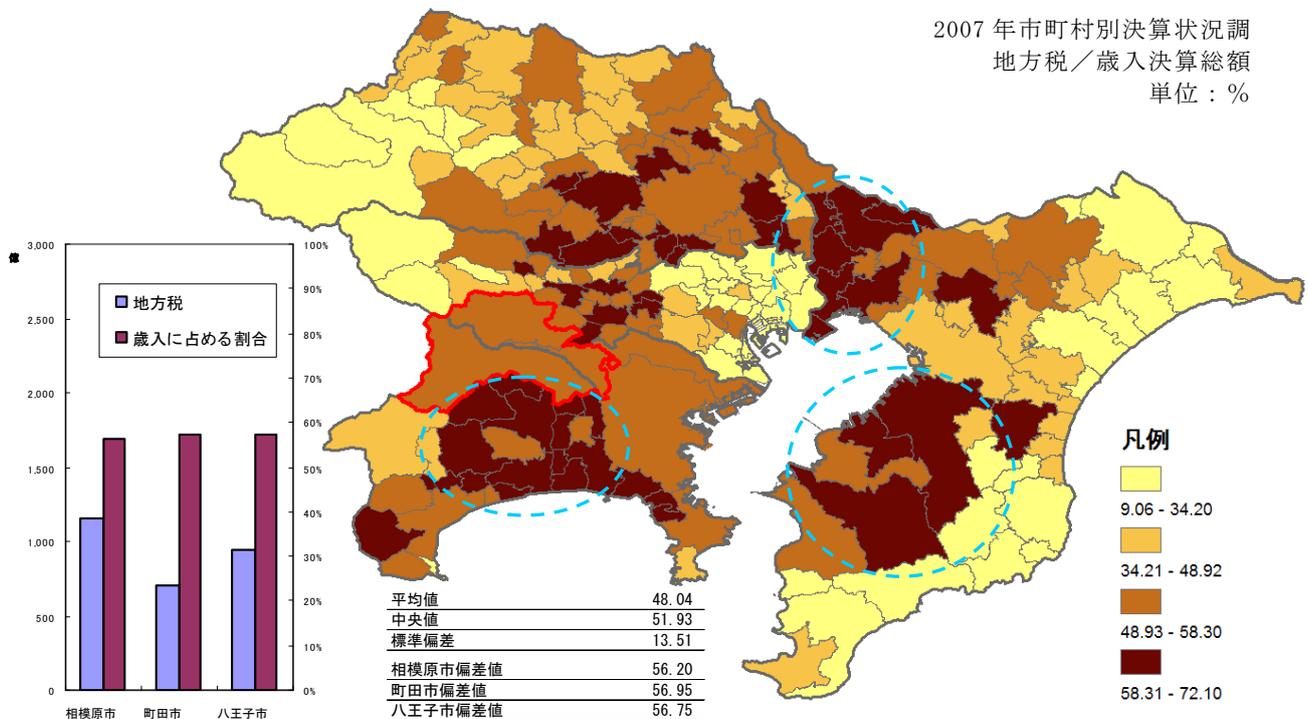


・当然ながら、歳入決算総額と同様の傾向である。

【参考データ：42 実質収支比率、44 歳入決算総額】

46 地方税

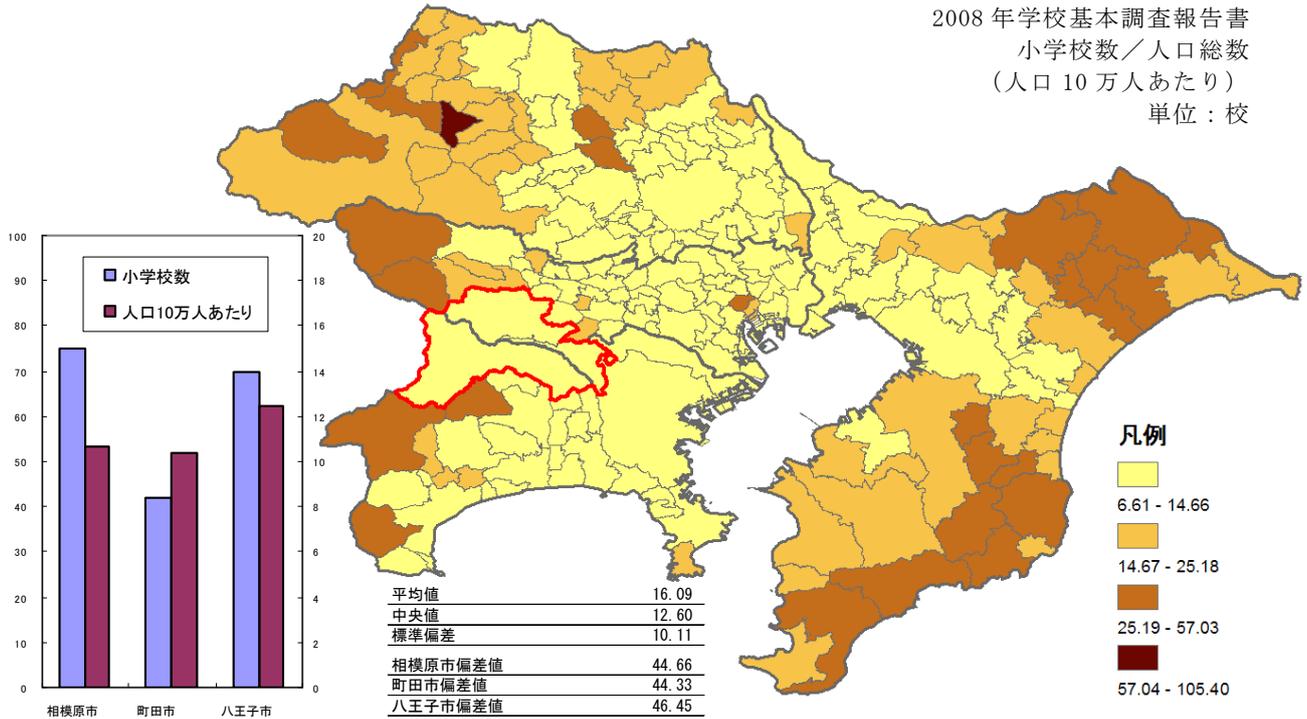
2007年市町村別決算状況調
地方税／歳入決算総額
単位：%



- ・23区は、市町村民税法人分・固定資産税・特別土地保有税の3税を特別区交付金として扱うため、地方税の割合が低く算出される。
- ・神奈川県内の県央地区・湘南地区、千葉県西部、京葉工業地帯などの地域で割合が高い。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を上回る。

49 小学校数

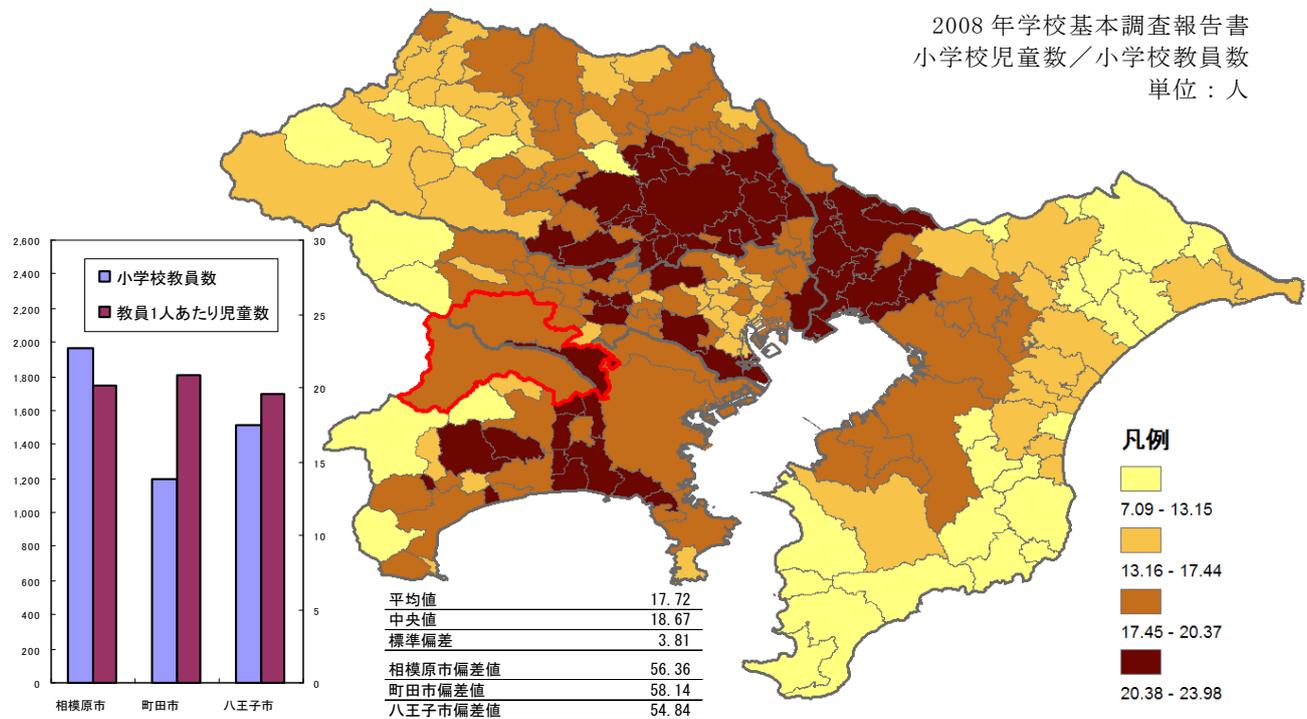
2008 年学校基本調査報告書
小学校数／人口総数
(人口 10 万人あたり)
単位：校



- ・ 小学校は、都心の一部や人口密度の低い地域などを除き、分布に大きな偏りは見られない。
- ・ 3市の比較では、八王子市が多いが、いずれも平均値を下回る。

50 小学校教員 1 人あたりの児童数

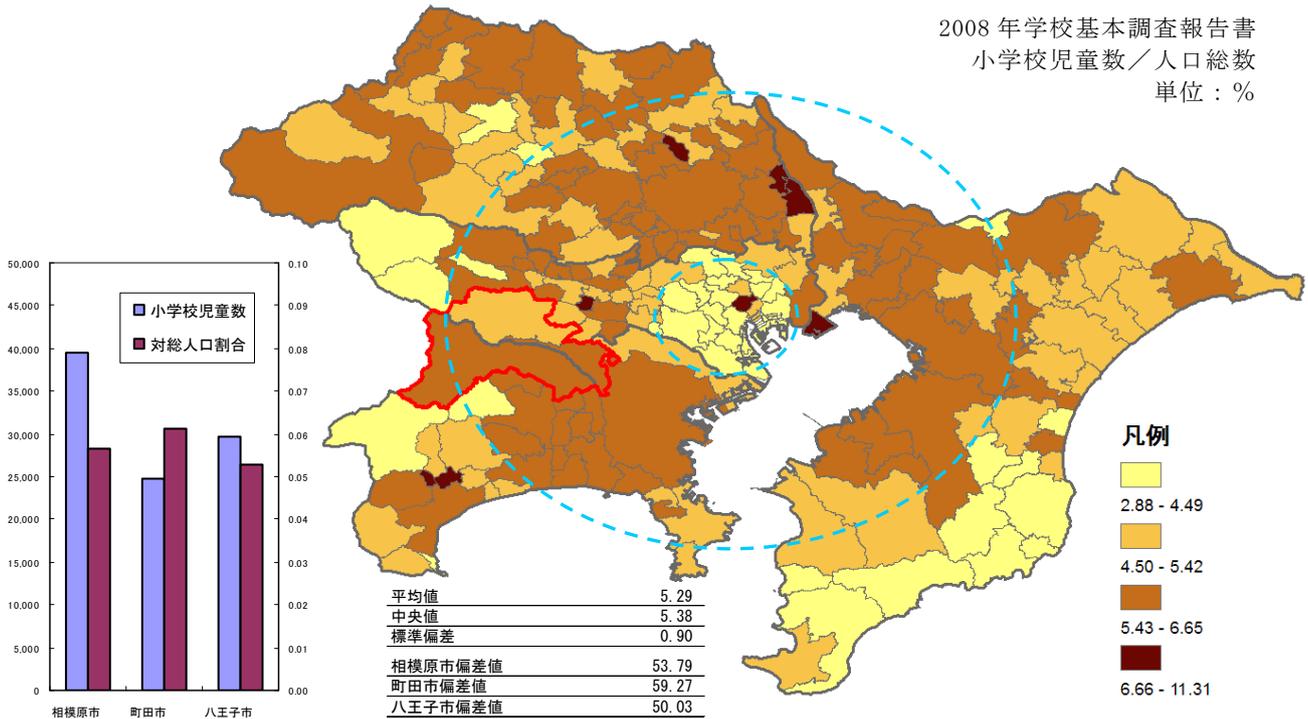
2008 年学校基本調査報告書
小学校児童数／小学校教員数
単位：人



- ・ 小学校教員 1 人あたりの児童数は、多い地域と少ない地域で 3 倍以上の差がある。
- ・ 3市の比較では、町田市がやや多いが、いずれも平均値を上回る。

51 小学校児童数

2008年学校基本調査報告書
 小学校児童数／人口総数
 単位：%

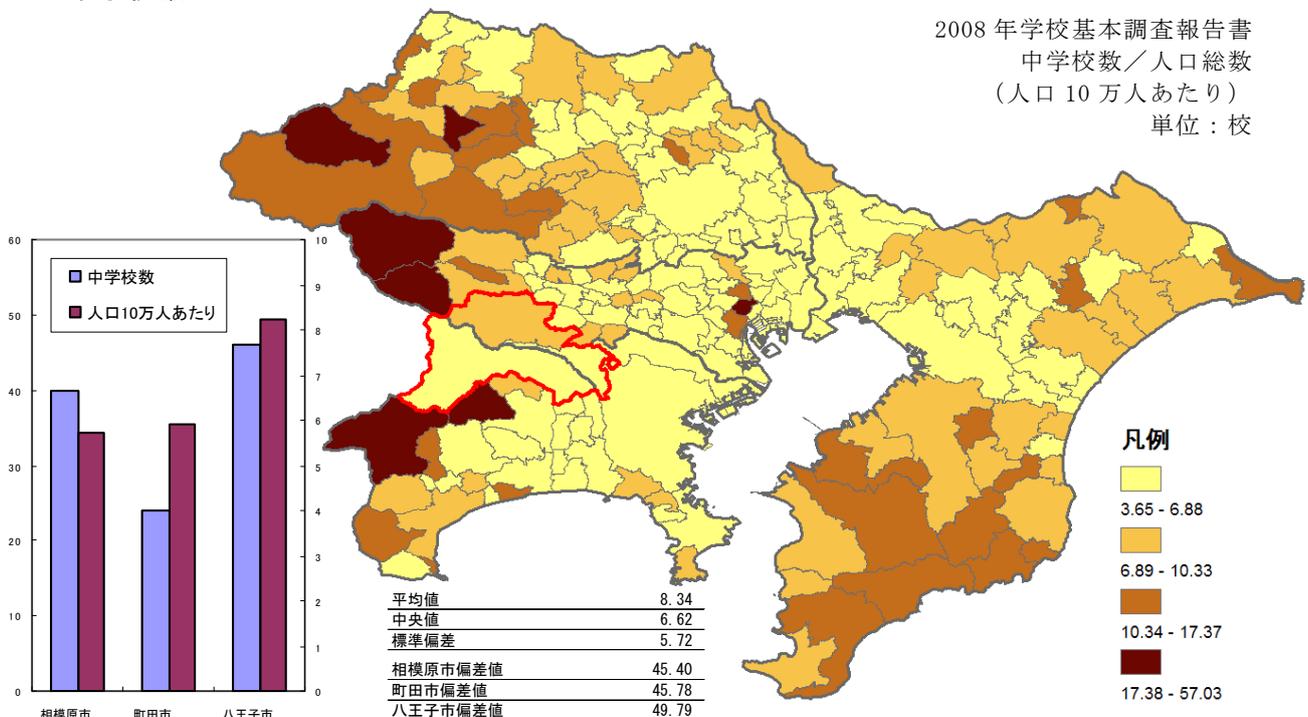


- ・雇用者の割合が高い地域⇨都心への通勤圏として高度経済成長期に人口が急増した地域では、小学校児童数の割合が高い傾向は幼稚園在園者数の分布と同様であるが、23区の割合の低さがより鮮明となり、割合の低いエリアも拡大している。
- ・3市の比較では、町田市の割合が高く、八王子市が低い、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：48 幼稚園在園者数、63 雇用者数】

52 中学校数

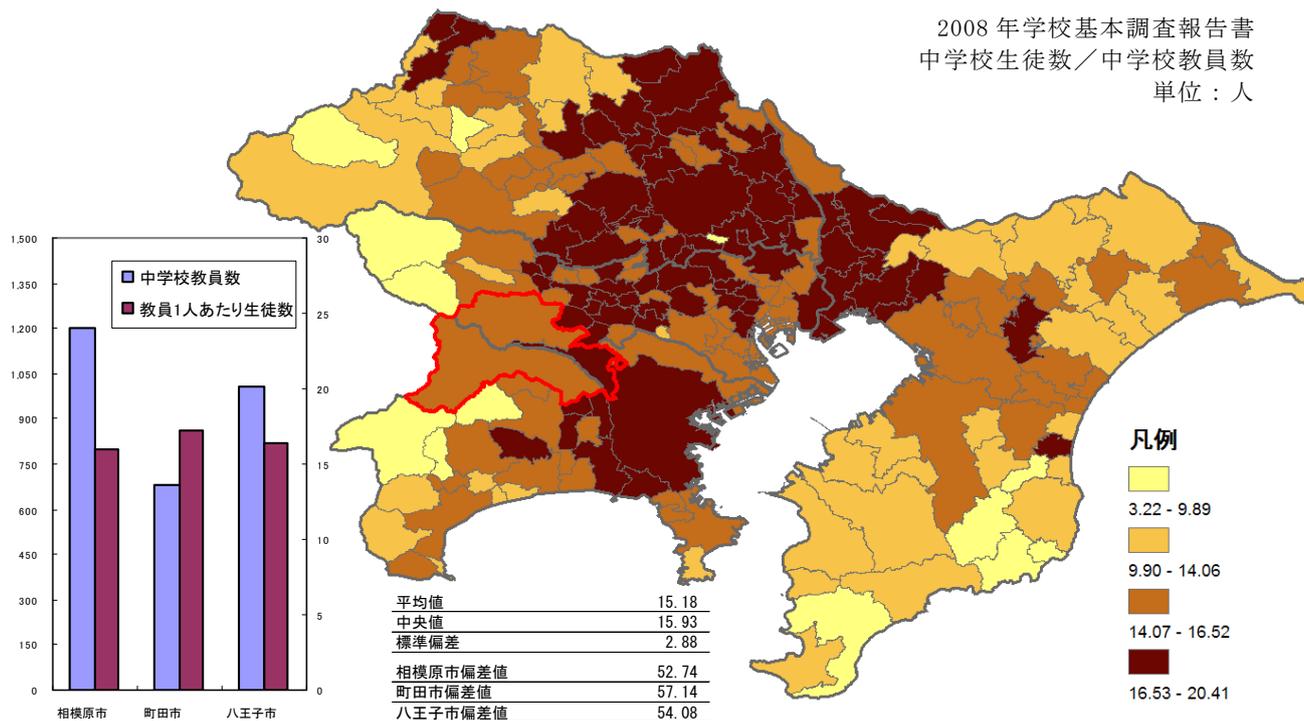
2008年学校基本調査報告書
 中学校数／人口総数
 (人口10万人あたり)
 単位：校



- ・中学校は、都心の一部や人口密度の低い地域などを除き、分布に大きな偏りは見られない。
- ・3市の比較では、八王子市が多いが、いずれも平均値を下回る。

53 中学校教員 1 人あたりの生徒数

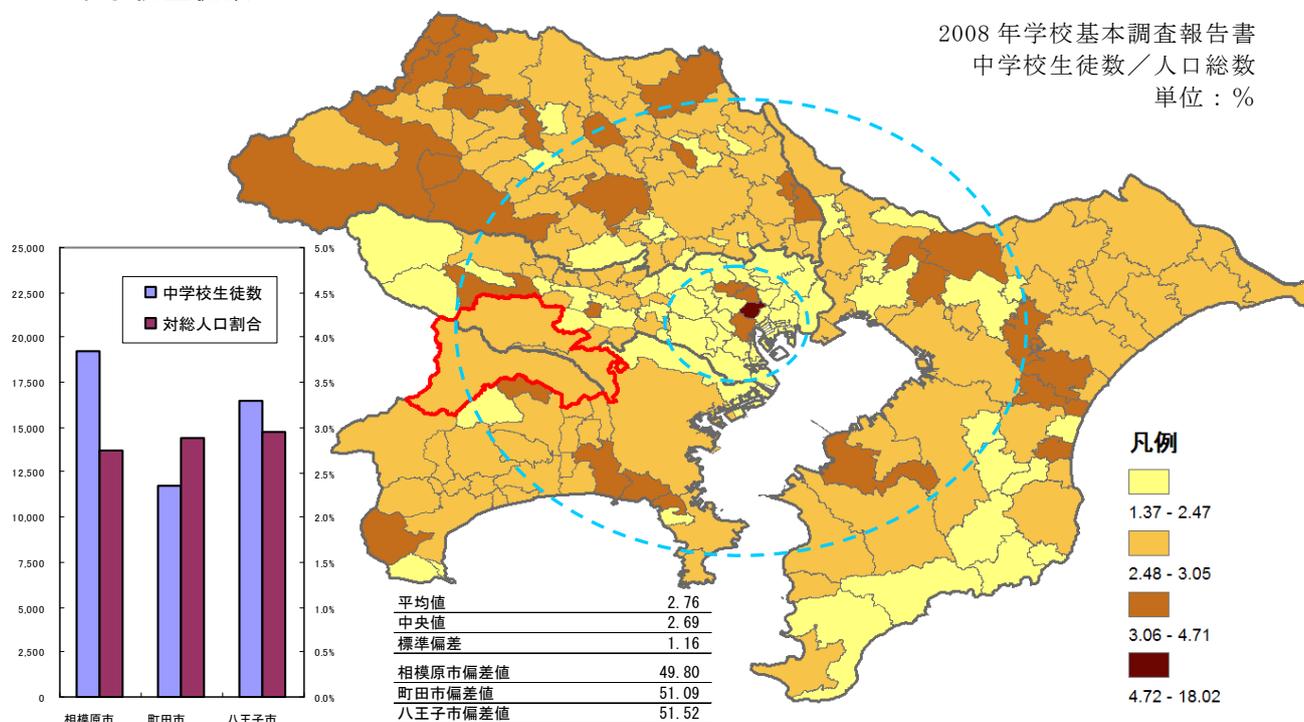
2008 年学校基本調査報告書
 中学校生徒数 / 中学校教員数
 単位：人



- ・ 中学校教員 1 人あたりの生徒数は、多い地域と少ない地域で 6 倍以上の差があるが、特に人口密度の低い地域以外では、大きな偏りはない。
- ・ 3 市の比較では、町田市が多いが、いずれも平均値を上回る。

54 中学校生徒数

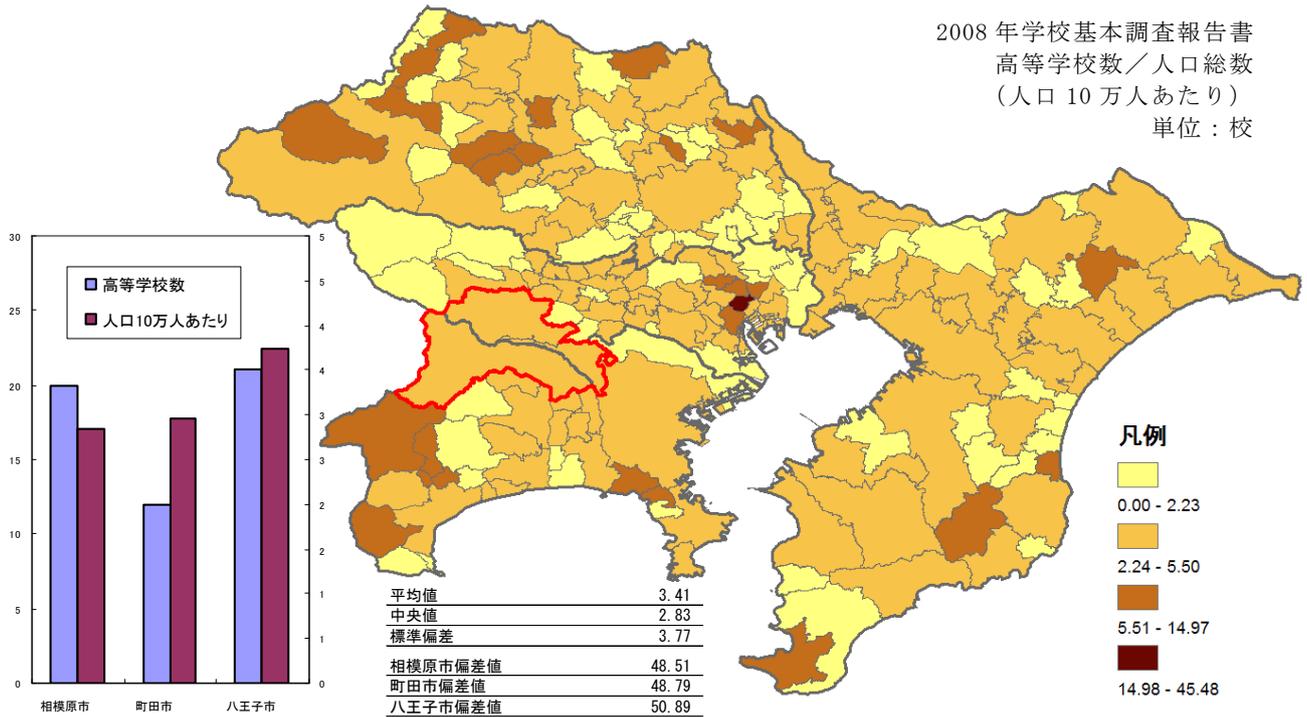
2008 年学校基本調査報告書
 中学校生徒数 / 人口総数
 単位：%



- ・ 小学校児童数に比べ、割合の低いエリアが拡大している。一方、都心の通勤圏の外との差は見られなくなっている。
- ・ 3 市の比較では、相模原市の割合が低く、平均値を下回る一方、町田市、八王子市は平均値を上回る。
 【参考データ：48 幼稚園在園者数、51 小学校児童数】

55 高等学校数

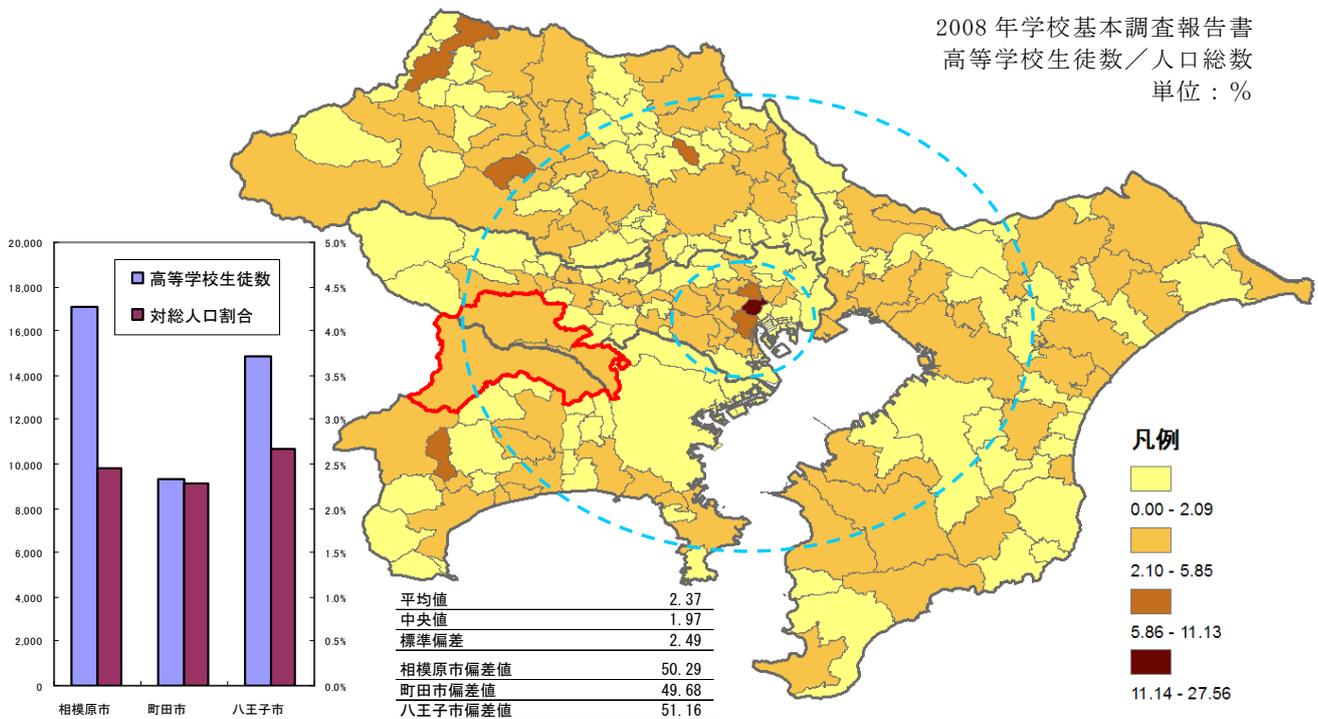
2008年学校基本調査報告書
高等学校数／人口総数
(人口10万人あたり)
単位：校



- ・高等学校は都心に偏る傾向である。
- ・3市の比較では、八王子市が多く、平均値を上回る一方、相模原市、町田市は平均値を下回る。

56 高等学校生徒数

2008年学校基本調査報告書
高等学校生徒数／人口総数
単位：%

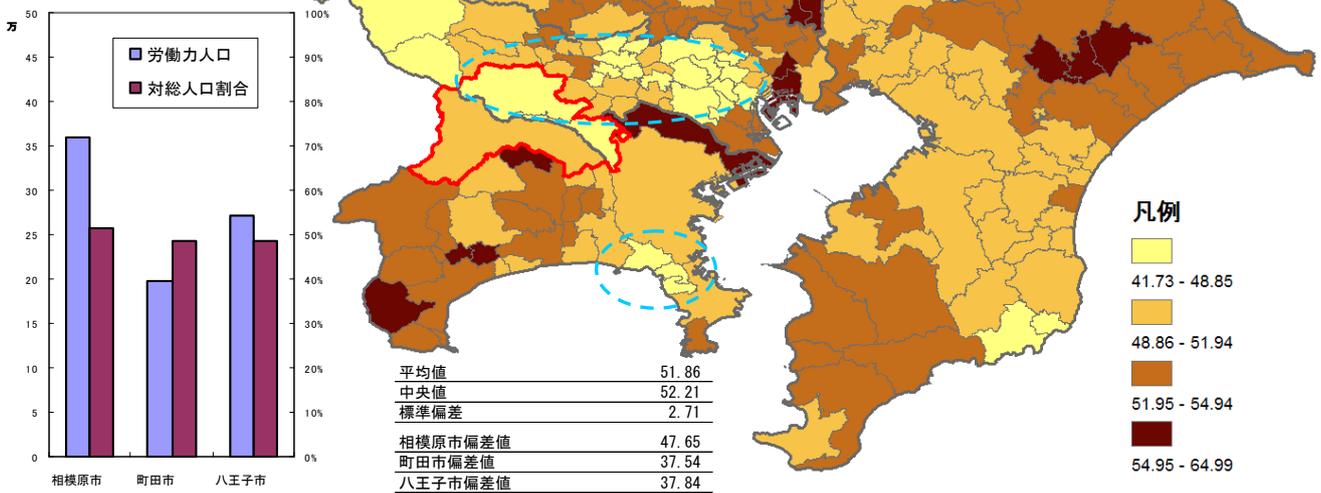


- ・幼稚園在園者数、小学校児童数、中学校生徒数に見られた都心周辺の割合の低さはなくなり、逆に割合の高いエリアとなっている。その他の地域では、分布に大きな偏りはない。
- ・3市の比較では、八王子市の割合がやや高く、平均値を上回る一方、相模原市はほぼ平均値、町田市は平均値をやや下回る。

【参考データ：48 幼稚園在園者数、51 小学校児童数、54 中学校生徒数】

57 労働力人口

2005年国勢調査
労働力人口／人口総数
単位：％

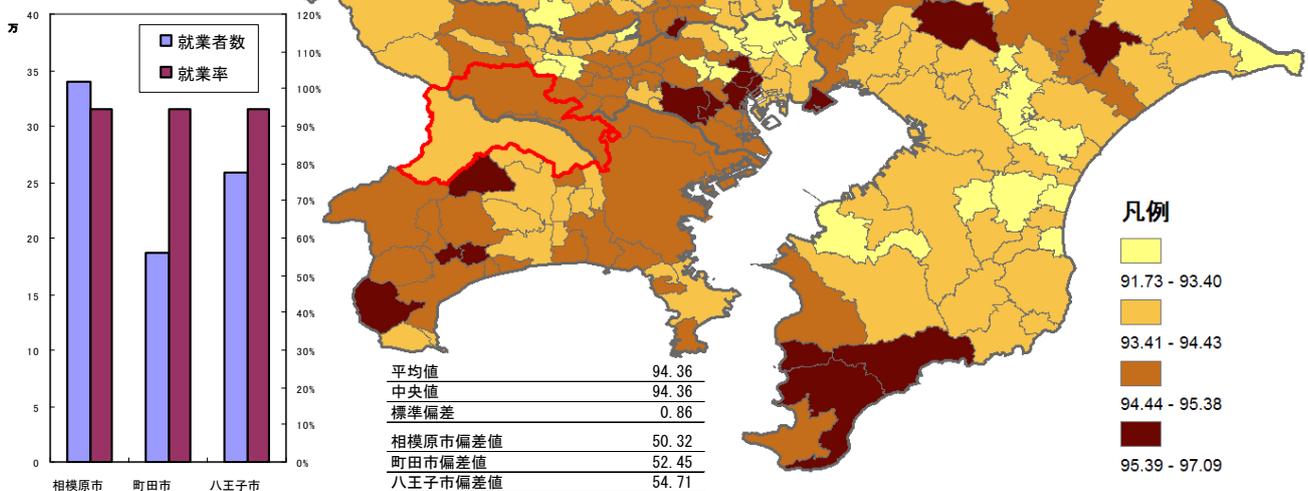


- ・東京都では、労働力人口の割合が低い。鎌倉市、逗子市、葉山町も同様の傾向がある。
- ・外房では老年人口が多いにも関わらず、労働力人口の割合に目立った低下は見られない。
- ・3市の比較では、相模原市の割合が高いが、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：4 65歳以上人口、17 単独世帯数、25 課税対象所得】

58 就業者数

2005年国勢調査
就業者数／労働力人口
単位：％

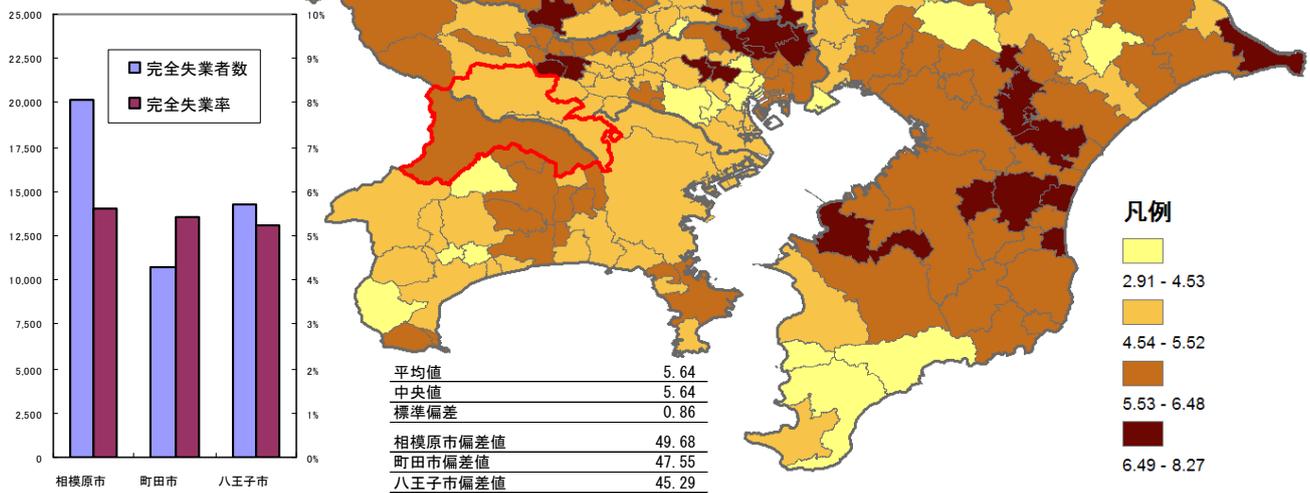


- ・就業率はまだら模様であり地域による目立った偏りは見られず、完全失業率と表裏一体の関係である。
- ・3市の比較では、八王子市がやや高いが、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：59 完全失業者数】

59 完全失業者数

2005年国勢調査
完全失業者数／労働力人口
単位：%

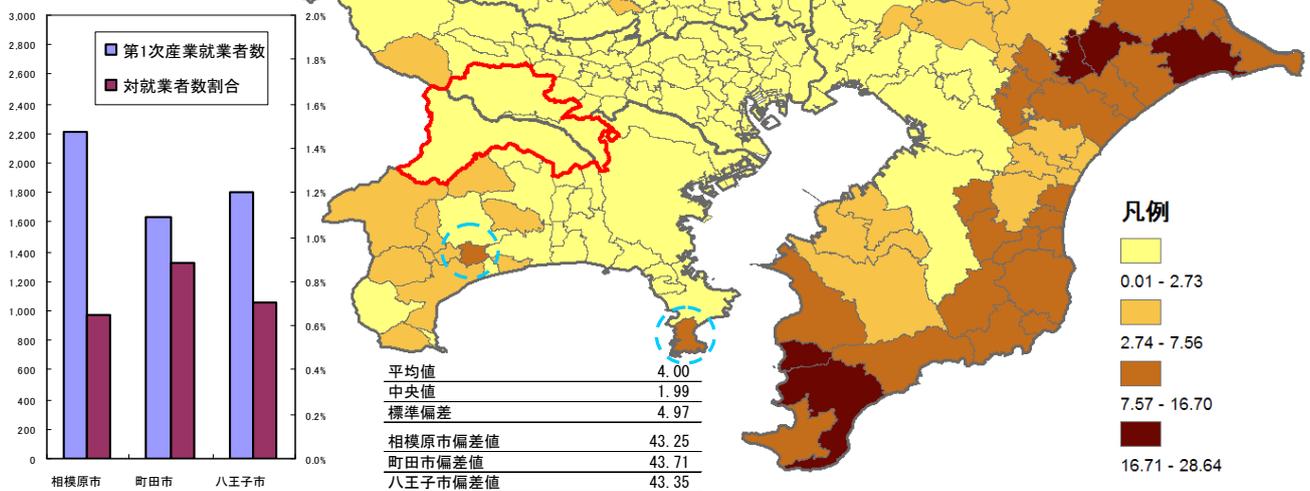


- ・完全失業率は、まだら模様であり地域による目立った偏りは見られず、就業者数と表裏一体の関係である。
- ・3市の比較では、相模原市がやや高いが、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：58 就業者数】

60 第1次産業就業者数

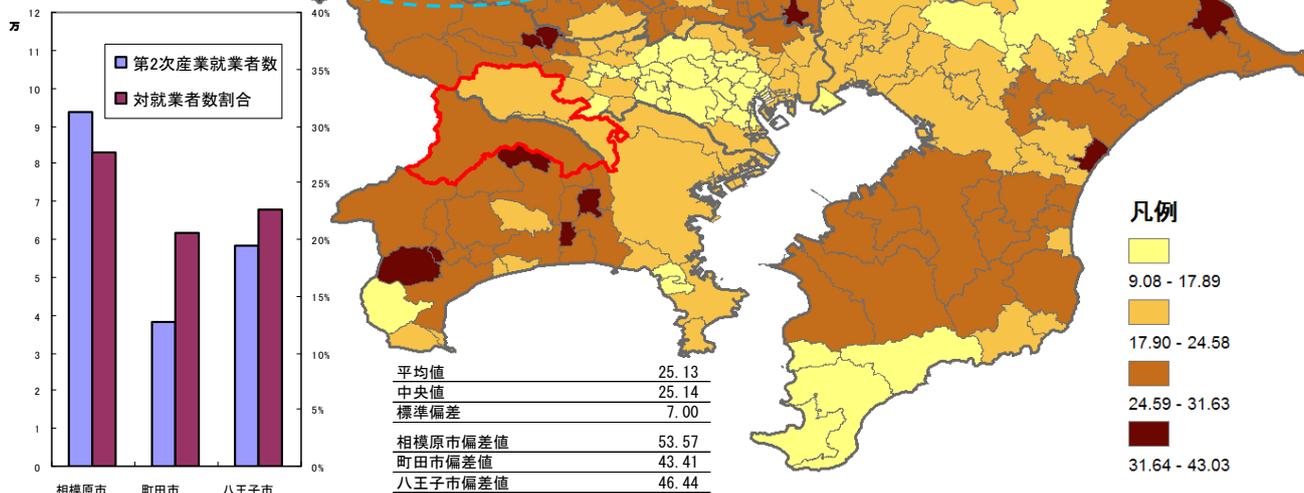
2005年国勢調査
第1次産業就業者数／就業者数
単位：%



- ・埼玉県北部と房総半島以外の地域では、第1次産業就業者の割合はきわめて低い。
- ・神奈川県では、三浦市と中井町で割合が高い。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回り、1%未満である。

61 第2次産業就業者数

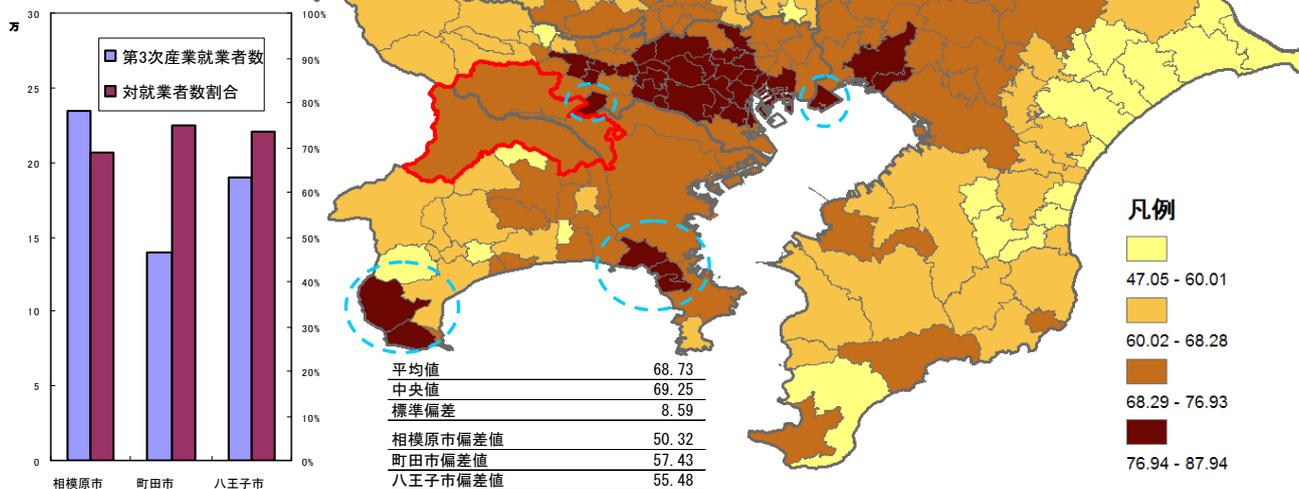
2005年国勢調査
第2次産業就業者数／就業者数
単位：%



- ・埼玉県西部で特に第2次産業就業者の割合が高い。
 - ・都心周辺では、工業地帯はあっても第3次産業就業者が多く、割合としては低くなる。
 - ・3市の比較では、相模原市の割合が高く、平均値を上回る一方、町田市、八王子市は平均値を下回る。
- 【参考データ：31 第2次産業従業者数、35 製造業従業者数】

62 第3次産業就業者数

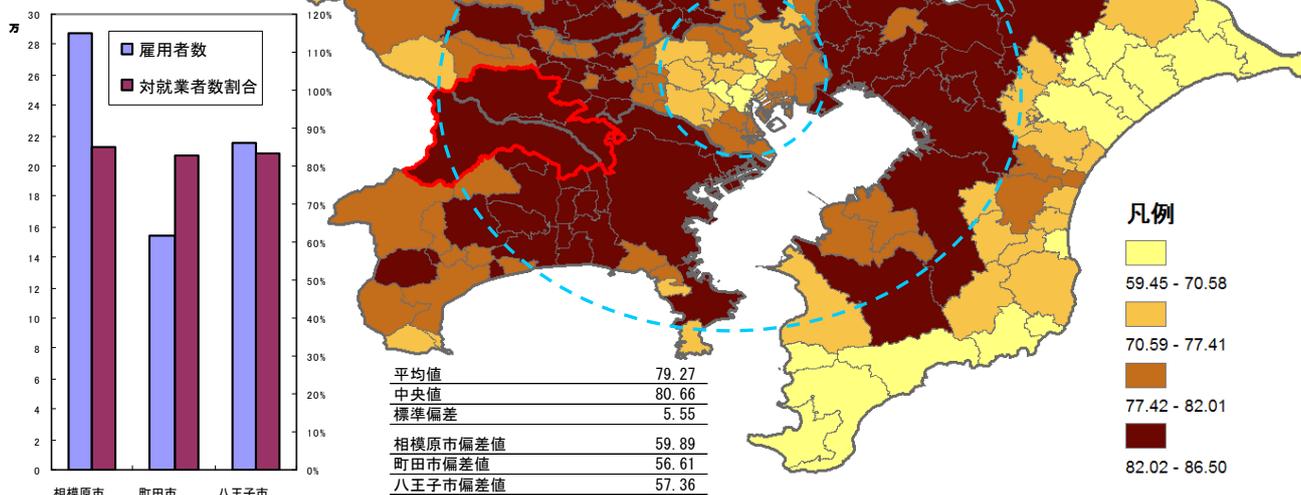
2005年国勢調査
第3次産業就業者数／就業者数
単位：%



- ・都心に近いほど第3次産業就業者の割合が高くなる。
- ・鎌倉市、多摩市、浦安市などのように、東京や横浜で勤務する人に人気の地域や、箱根町などのように観光産業に特化している地域で、第3次産業就業者の割合が高い。
- ・3市の比較では、相模原市の割合がやや低く、平均値程度である一方、町田市、八王子市は平均値を上回る。

63 雇用者数

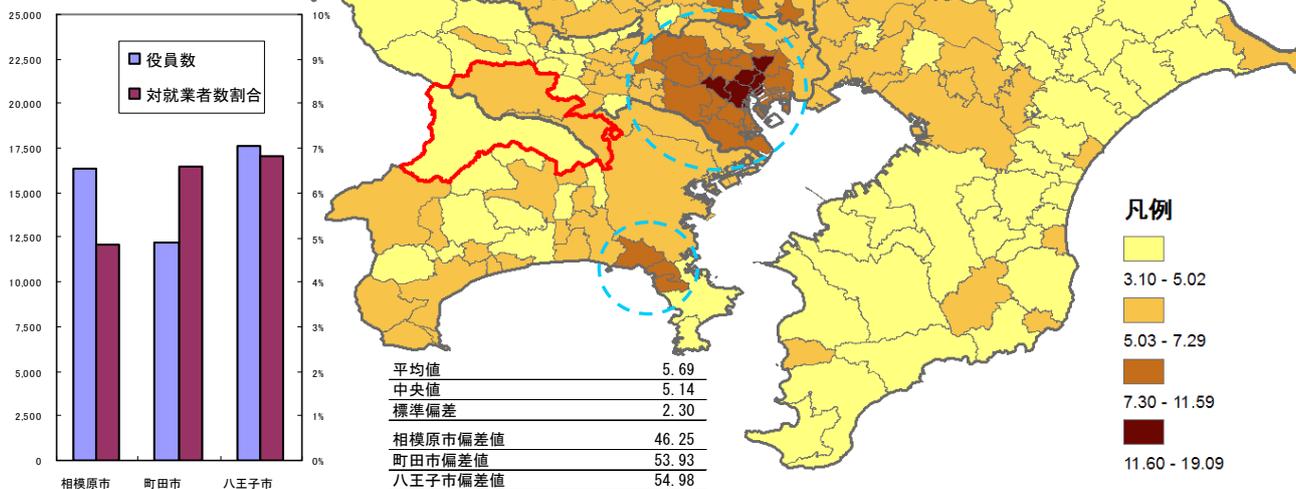
2005年国勢調査
雇用者数／就業者数
単位：%



- ・ 就業者に占める雇用者の割合が高い地域は、都心の通勤圏として高度経済成長期に人口が急増した地域である。
- ・ 3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を上回り、就業者の80%以上が雇用者である。

64 役員数

2005年国勢調査
役員数／就業者数
単位：%

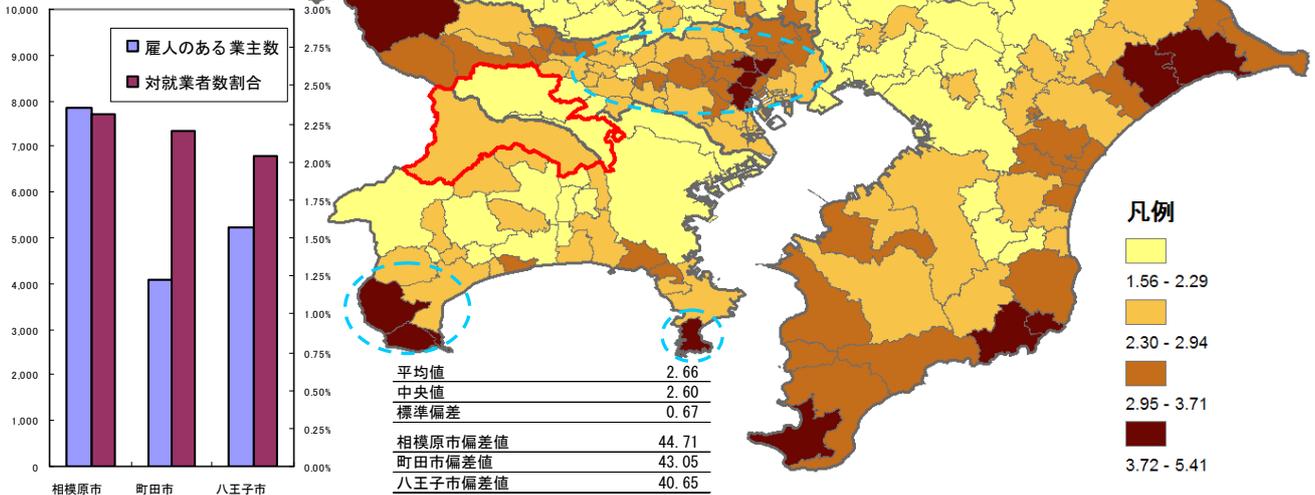


- ・ 23区、特に千代田区、中央区、港区、台東区、渋谷区は、就業者に占める役員の割合が高い。また鎌倉市、逗子市、葉山町も、東京、横浜に近いリゾート地というイメージからか割合が高い。これらの地域は、いずれも納税義務者1人あたりの課税所得額が高いという特徴がある。
- ・ 3市の比較では、町田市、八王子市が平均値を上回るのに対し、相模原市の割合は低く、平均値を下回る。

【参考データ：25 課税対象所得】

65 雇人のある業主数

2005年国勢調査
雇人のある業主数／就業者数
単位：%

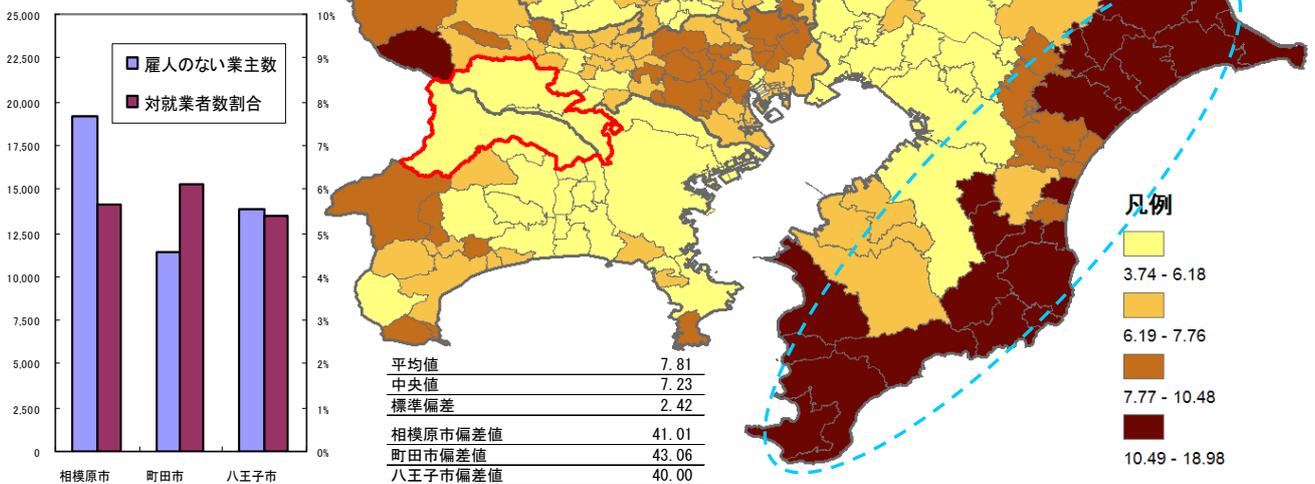


- ・都心及び東京都内において雇人のある業主の割合が高く、雇用者の割合が高い都心の通勤圏では、割合が低い。
- ・神奈川県では、農業、漁業、観光業の盛んな三浦市、箱根町、湯河原町、真鶴町などの割合が高い。
- ・3市の比較では、相模原市がやや割合が高いが、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：63 雇用者数】

66 雇人のない業主数

2005年国勢調査
雇人のない業主数／就業者数
単位：%

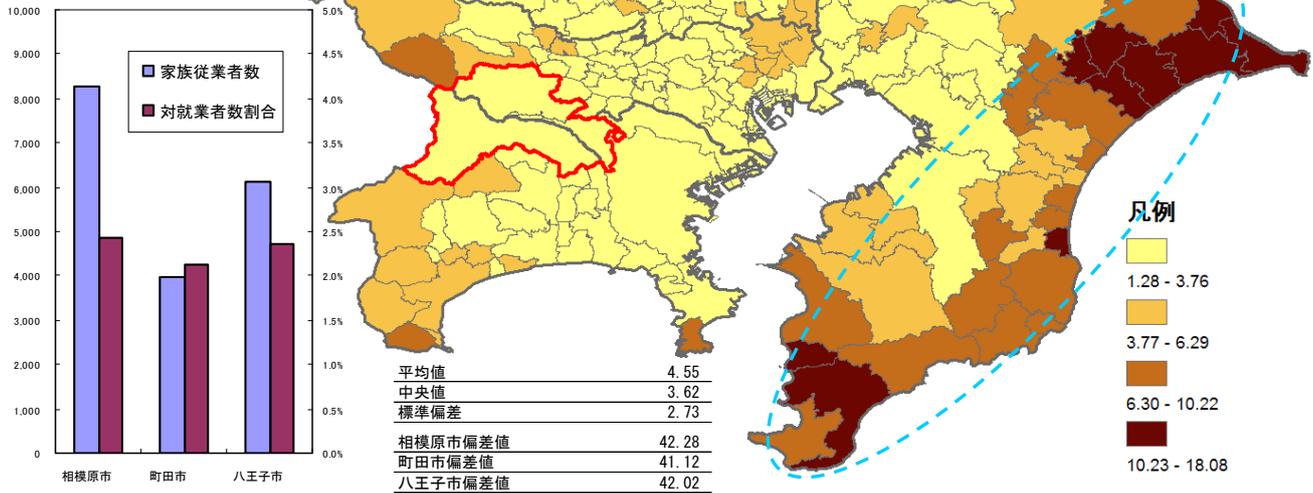


- ・雇用者の割合が低い外房では業主の割合が高く、特に雇人のない業主の割合が高くなっている。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：63 雇用者数、65 雇人のある業主数】

67 家族従業者数

2005年国勢調査
家族従業者数／就業者数
単位：%

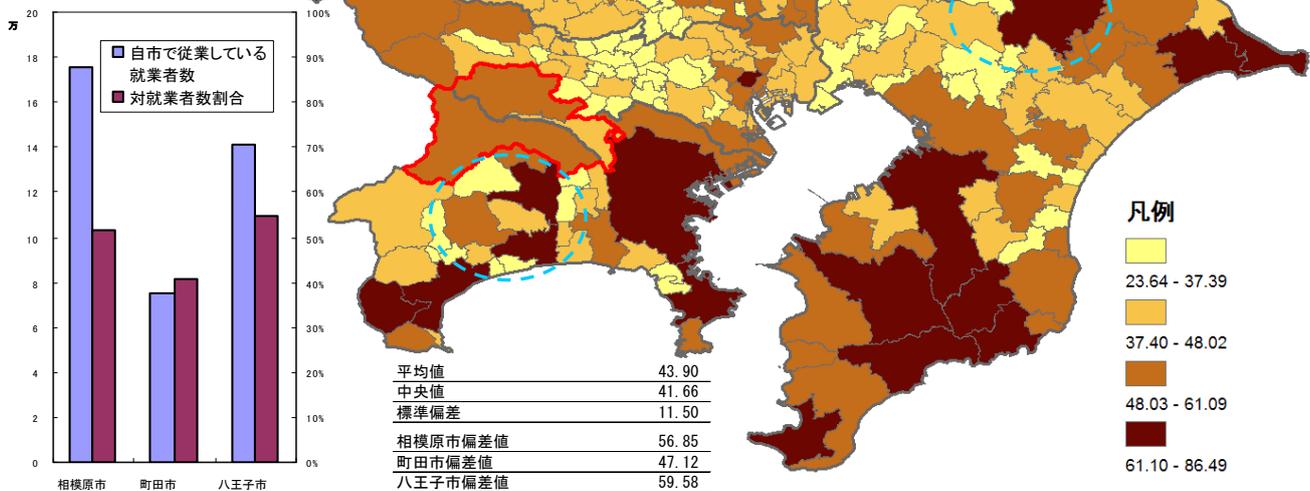


- ・雇人のない業主数の割合の高い地域で家族従業者の割合も高いが、都心では割合が低い。これは、家族従業者には第1次産業就業者が多いためである。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：60 第1次産業就業者数、66 雇人のない業主数】

68 自市区町村で従業している就業者数

2005年国勢調査
自市区町村で従業している就業者数／就業者数
単位：%

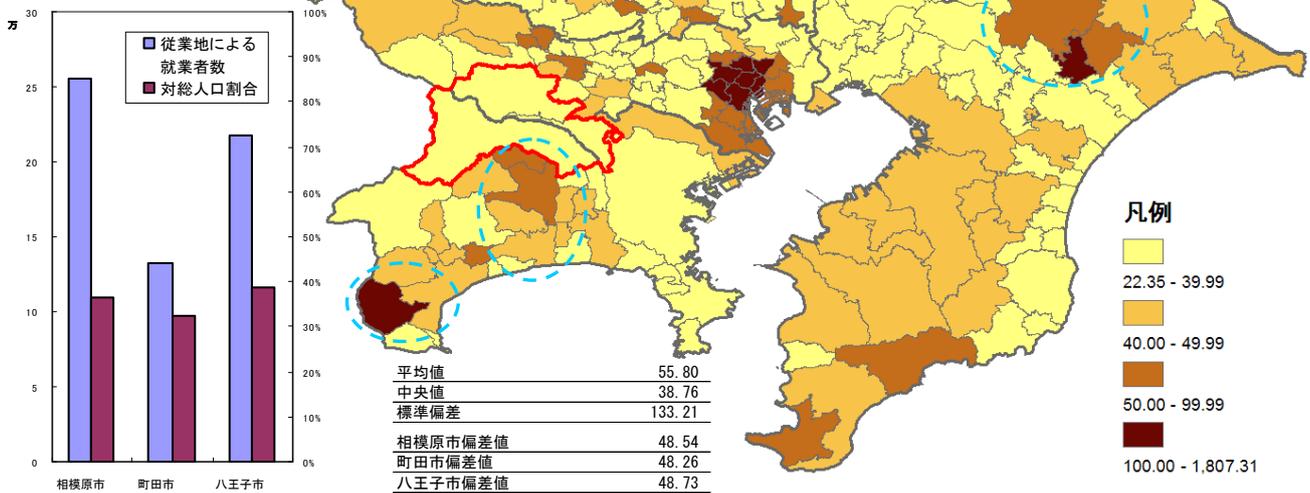


- ・都心への通勤圏では自市区町村で従業している就業者の割合が低い傾向にあるが、雇用者の分布ほど明確な差はみられない。むしろ、事業所数や従業者数の多い自治体とその周辺の自治体の間で、「勤務地－居住地」という、いわゆるベッドタウンの関係がみられる。(厚木市、平塚市、成田市などとその周辺の関係)
- ・3市の比較では、町田市の割合が低く平均値を下回る一方、相模原市、八王子市は平均値を上回る。

【参考データ：27 事業所数、30 従業者数、63 雇用者数】

69 従業地による就業者数

2005年国勢調査
従業地による就業者数／人口総数
単位：％

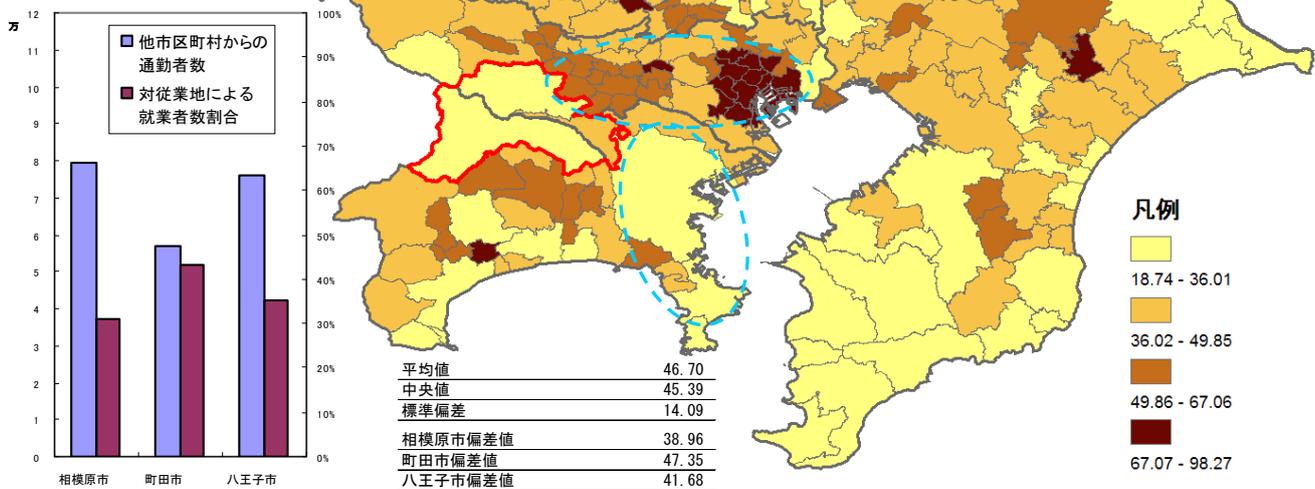


- ・都心の通勤圏内では全体的に割合が低い一方で、都心から一定の距離があり工業や観光など独自の産業が盛んな自治体で割合が高いなど、昼夜間人口比率の分布と近似するが、学生数、主婦数、高齢者数などに影響を受けず、人口に対する雇用の量を表している。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値をやや下回る。

【参考データ：12 昼夜間人口比率、68 自市区町村で従業している就業者数】

70 他市区町村からの通勤者数

2005年国勢調査
他市区町村からの通勤者数
／従業地による就業者数
単位：％

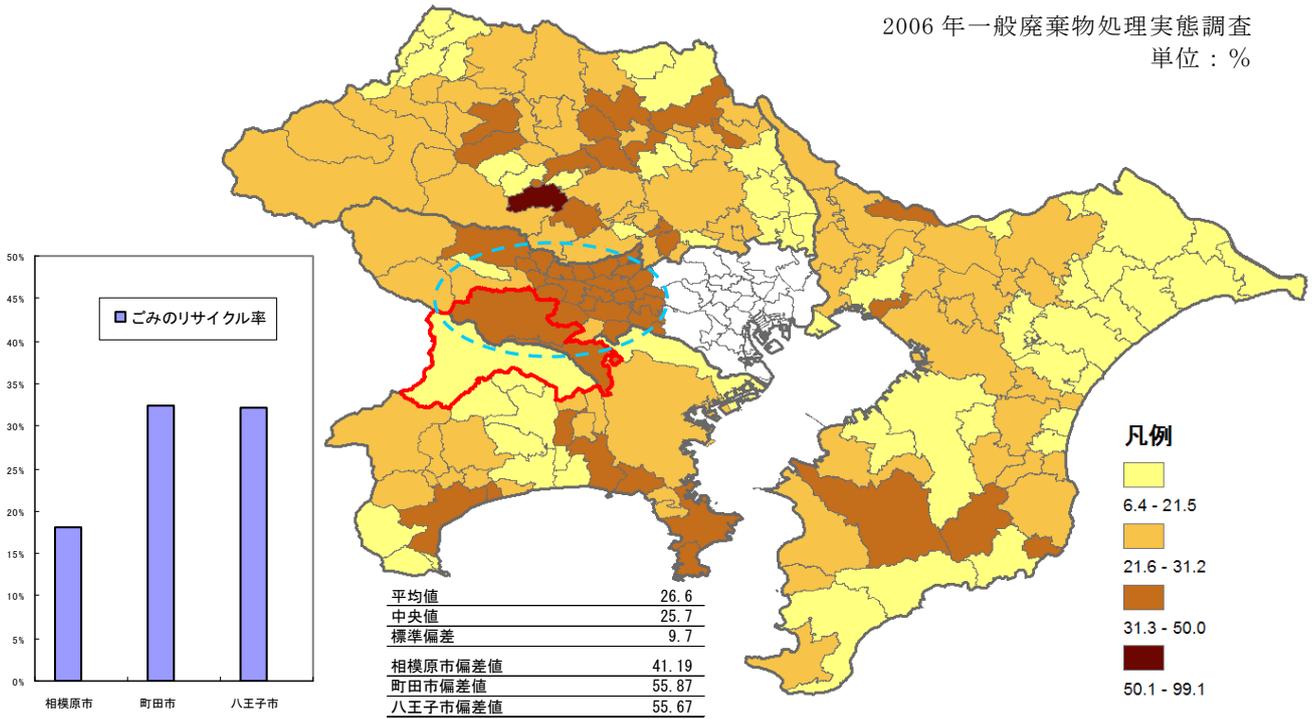


- ・23区を中心に、東京都で割合が高い。また、埼玉県でも割合が高い地域が多い。
- ・神奈川県では、横浜市、相模原市、横須賀市などで割合が低く、自市区町村内で労働力をまかなっている傾向が強い。
- ・3市の比較では、町田市の割合が高いが、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：68 自市区町村で従業している就業者数】

73 ごみのリサイクル率

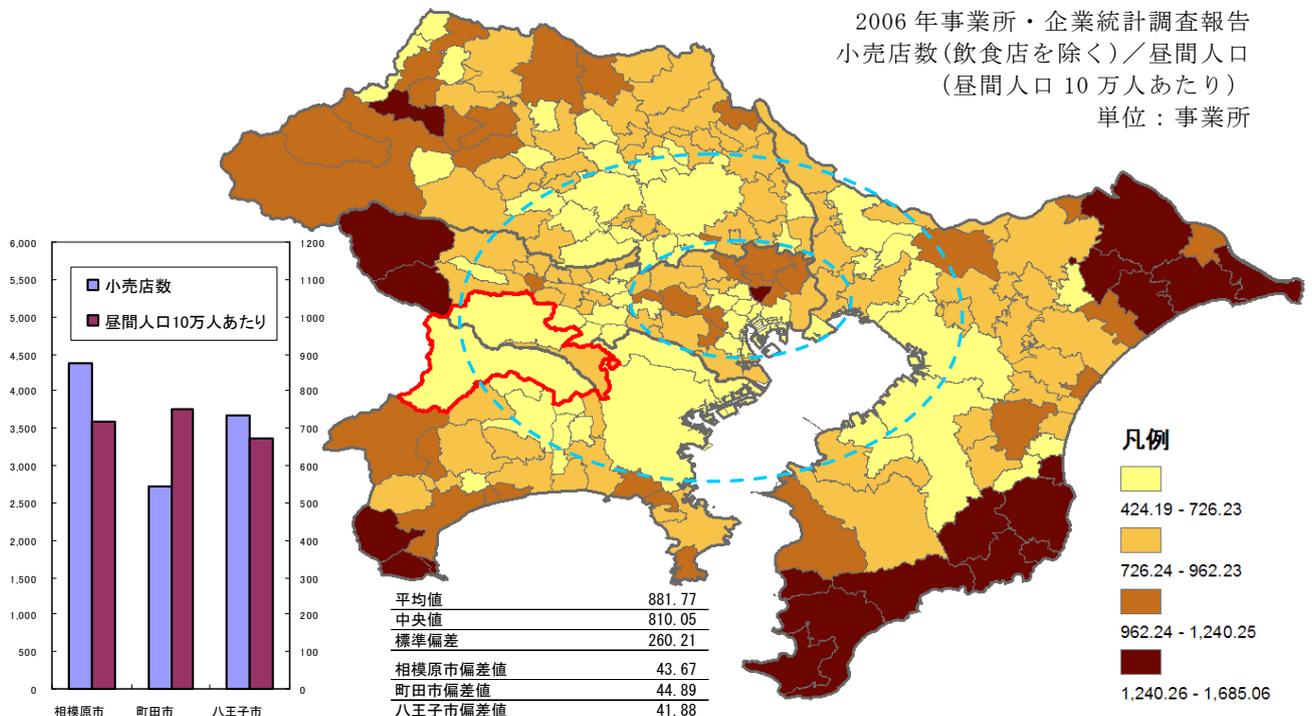
2006年一般廃棄物処理実態調査
単位：%



- ・東京都は他県よりリサイクル率が高い。(23区はデータなし。)
 - ・3市の比較では、町田市、八王子市が高く、平均値を上回る一方、相模原市は平均値を下回る。
- 【参考データ：72 ごみ総排出量（総量）】

74 小売店数（飲食店を除く）

2006年事業所・企業統計調査報告
小売店数(飲食店を除く)／昼間人口
(昼間人口10万人あたり)
単位：事業所

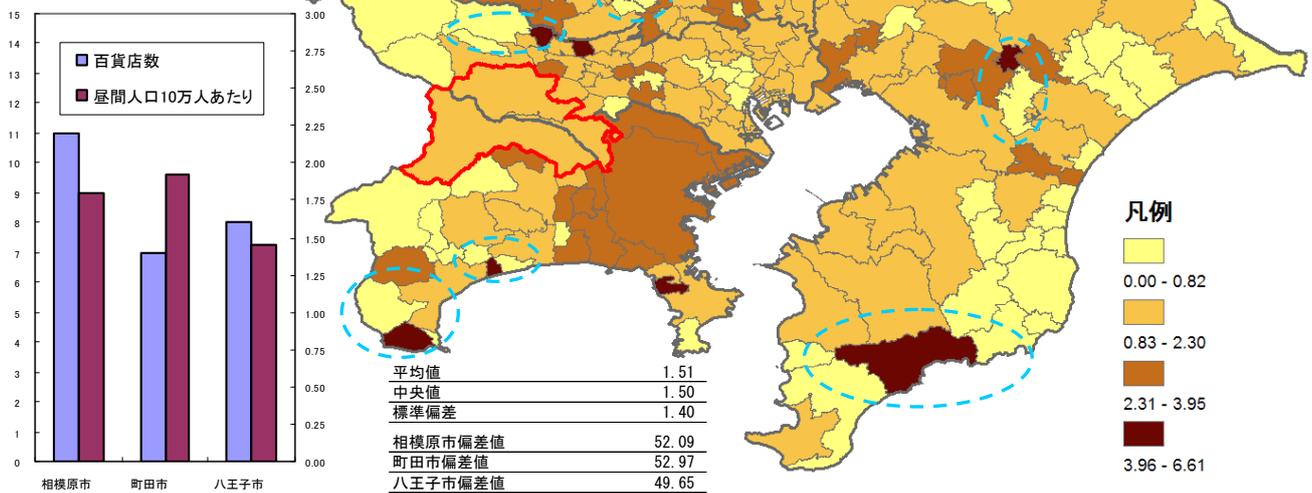


- ・雇用の多い地域で小売店数(飲食店を除く)が少ない傾向がある。
- ・都心のオフィス街では、昼間人口に対して小売店数が非常に少ない。
- ・3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：63 雇用者数】

77 百貨店数

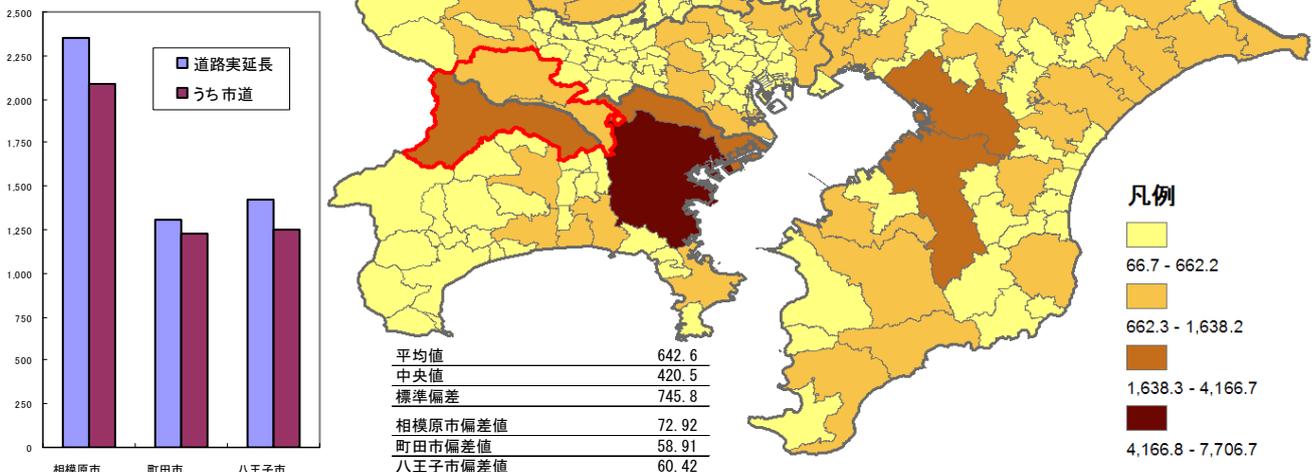
2006年事業所・企業統計調査報告
百貨店数/昼間人口
(昼間人口10万人あたり)
単位：事業所



- ・百貨店数の多い自治体は一箇所に集中せず、各地に点在しており、その隣接自治体では百貨店数が少ない例が見られる。
- ・奥多摩や外房など、小売店数(飲食店を除く)の多い地域では、百貨店数は少ない。
- ・3市では、相模原市、町田市の数が多く、平均値を上回る一方、八王子市は少なく、平均値を下回る。
【参考データ：74 小売店数(飲食店を除く)】

78 道路実延長

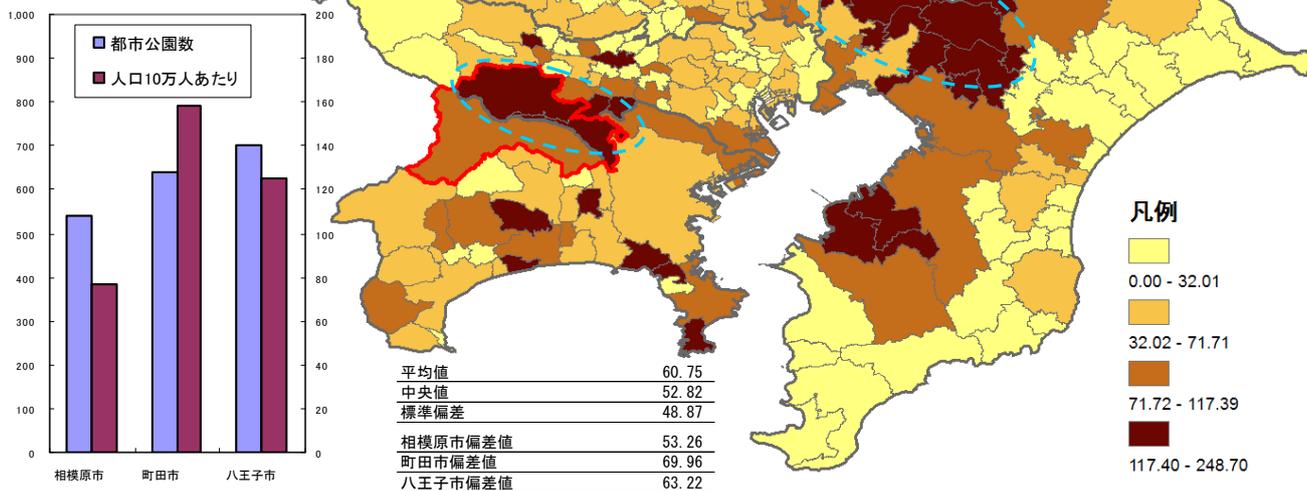
2008年道路統計年報
単位：km



- ・道路実延長の大部分は市道であるため、人口が多く、かつ面積の広い市区町村で長くなる。
- ・3市の比較では、相模原市が特に長いですが、いずれも平均値を上回る。
【参考データ：22 総面積、24 可住地人口密度】

79 都市公園数

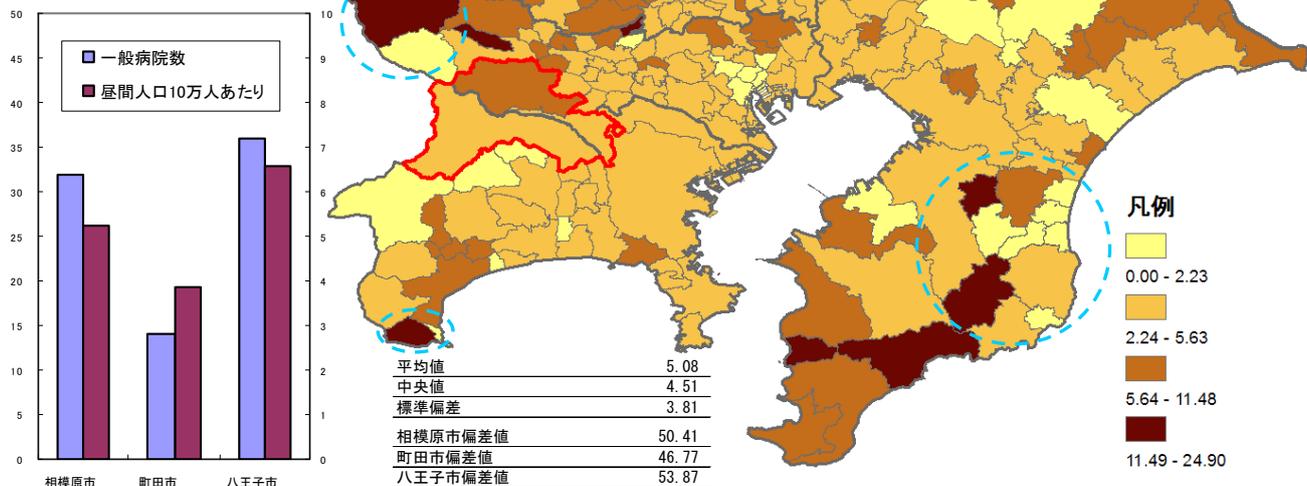
2007年都市公園等整備現況調査
都市公園数／人口総数
(人口10万人あたり)
単位：箇所



- ・多摩ニュータウンや千葉ニュータウンなど、近年開発された住宅地では都市公園数が多い。
- ・3市の比較では、町田市が多く、相模原市が少ないが、いずれも平均値を上回る。

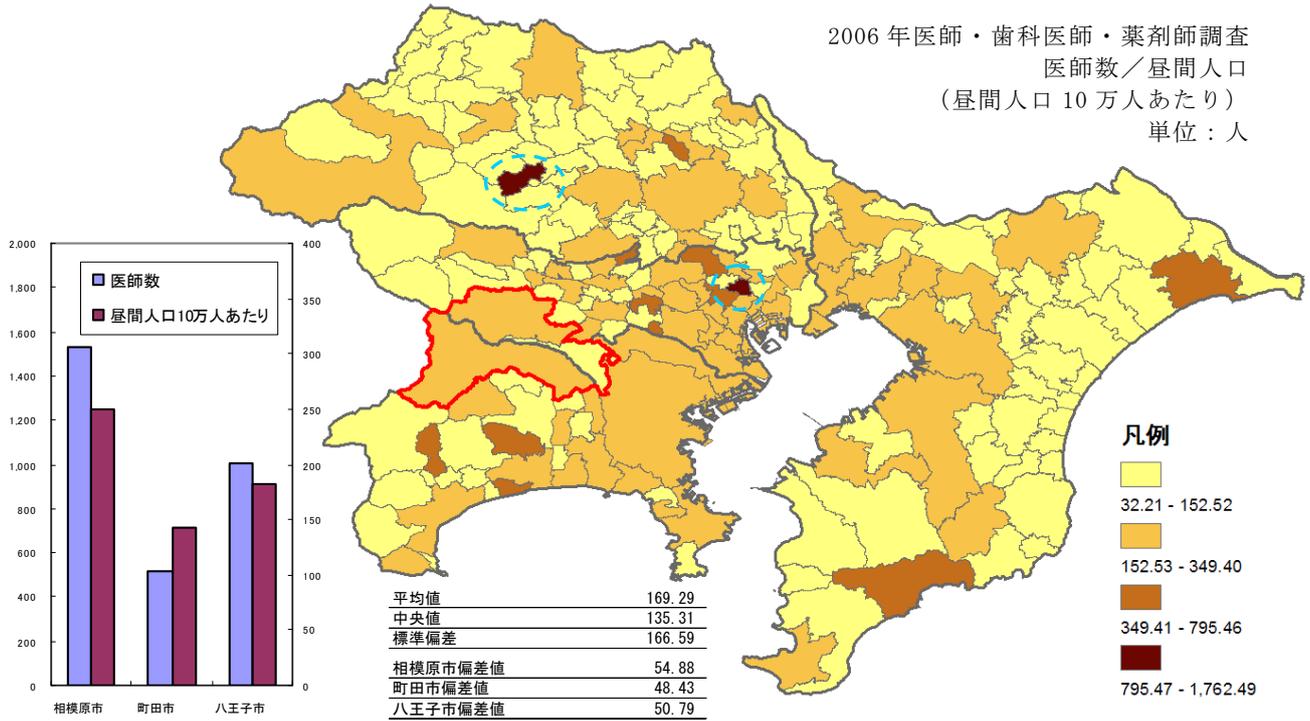
80 一般病院数

2007年医療施設調査、病院報告
一般病院数／昼間人口
(昼間人口10万人あたり)
単位：施設



- ・都市部では大きな偏りは見られないが、昼間人口の少ない地域では一般病院数ゼロの自治体もあり、周辺自治体の一般病院を利用しているという実態がある。
- ・3市の比較では、八王子市が多く、相模原市も平均値を上回るが、町田市は平均値を下回る。

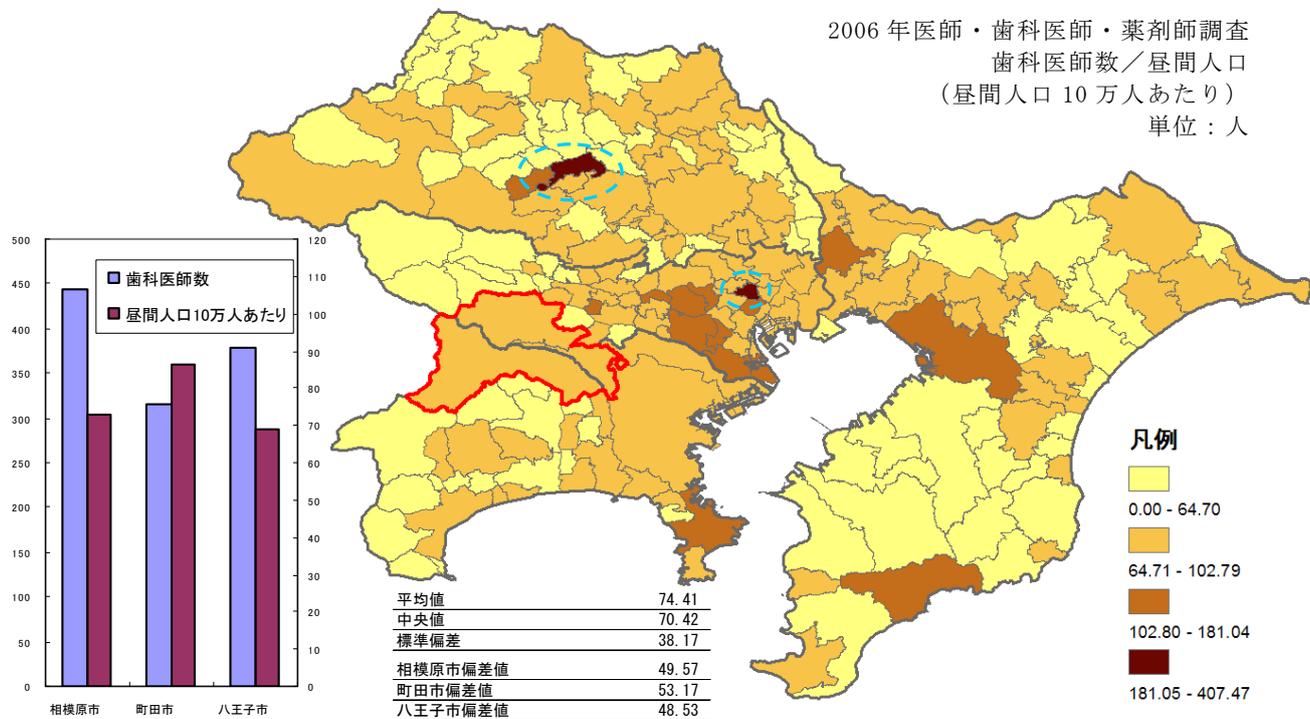
83 医師数



- ・ 医大や大病院のある自治体は医師数が多い。(文京区には東大病院、日本医大病院等があり、毛呂山町には埼玉医大病院、埼玉医科大国際医療センターがある。)
- ・ 人口の少ない地域では、医師数も少ない。
- ・ 3市の比較では、北里大学病院などがある相模原市が多い一方、町田市は平均値を下回る。

【参考データ：80 一般病院数、81 一般診療所数】

84 歯科医師数

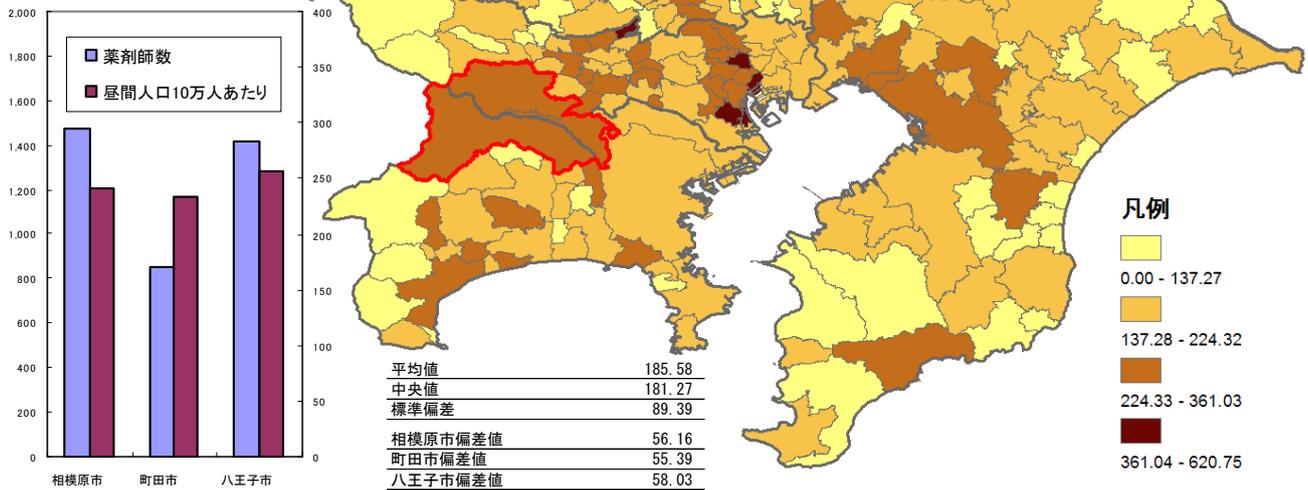


- ・ 医師数と同様、医大歯学部のある自治体は歯科医師数が多い。(坂戸市には明海大歯学部附属病院がある。)
- ・ 人口の少ない地域では、歯科診療所数が少なく、歯科医師数も少ない。
- ・ 3市の比較では、町田市が多く、平均値を上回る一方、相模原市、八王子市では平均値を下回る。

【参考データ：82 歯科診療所数】

85 薬剤師数

2006年医師・歯科医師・薬剤師調査
 薬剤師数／昼間人口
 (昼間人口10万人あたり)
 単位：%

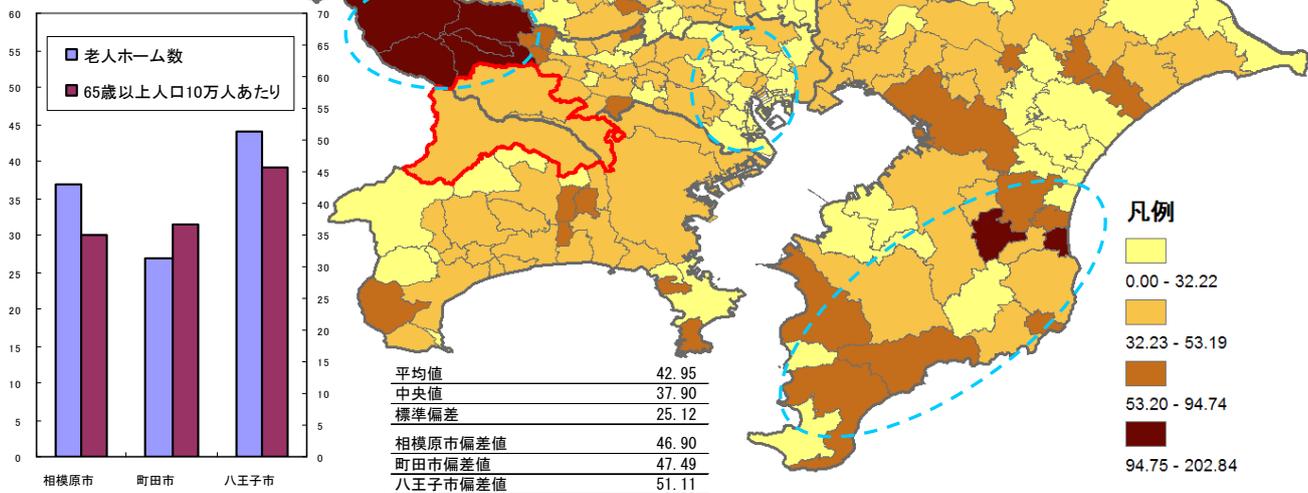


- ・ 医師数の分布と近似するが、薬剤師数のほうが偏りはやや小さい。
- ・ 3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：83 医師数】

86 老人ホーム数

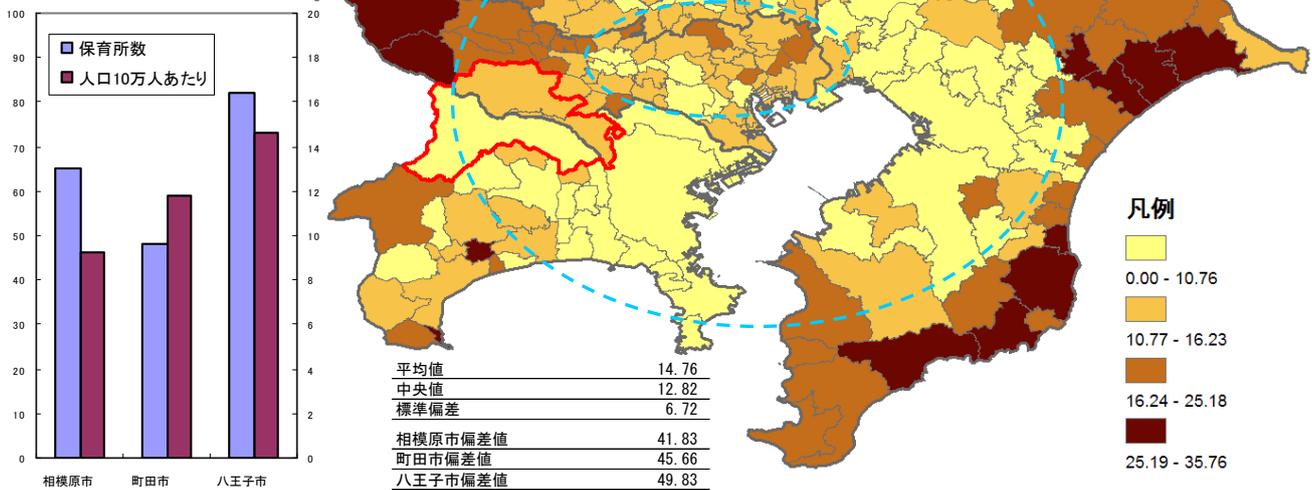
2007年社会福祉施設等調査報告
 老人ホーム数／65歳以上人口
 (65歳以上人口10万人あたり)
 単位：所



- ・ 都心でやや少ない傾向があるものの、都市部では大きな偏りは見られない。一方で、奥多摩地域や房総などに多く分布している。
- ・ 3市の比較では、八王子市が高く、平均値を上回る一方、相模原市、町田市は平均値を下回る。

87 保育所数

2007年社会福祉施設等調査報告
 保育所数／人口総数
 (人口10万人あたり)
 単位：所

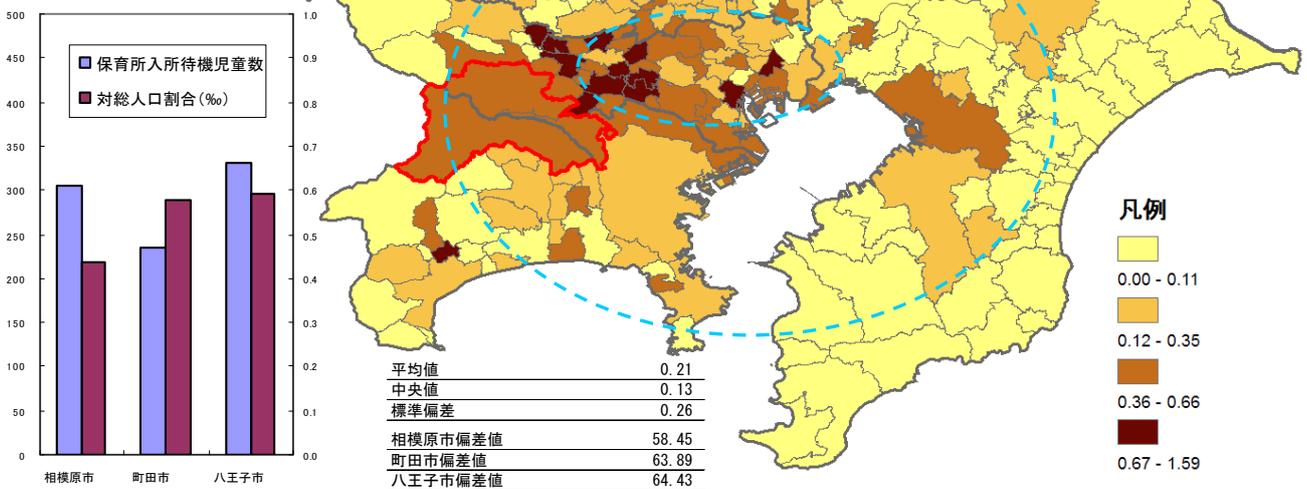


- ・雇用者数の多い地域⇨都心への通勤圏では、出生数が多く、核家族世帯の割合が高いにも関わらず、保育所数が少ないが、東京都は他県に比べて保育所数が多い。
- ・3市の比較では、八王子市が多く、相模原市が少ないが、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：6 出生数、16 核家族世帯数、63 雇用者数、89 保育所所在所児数】

88 保育所入所待機児童数

2008年保育所入所待機児童数調査
 保育所入所待機児童数／人口総数
 単位：%

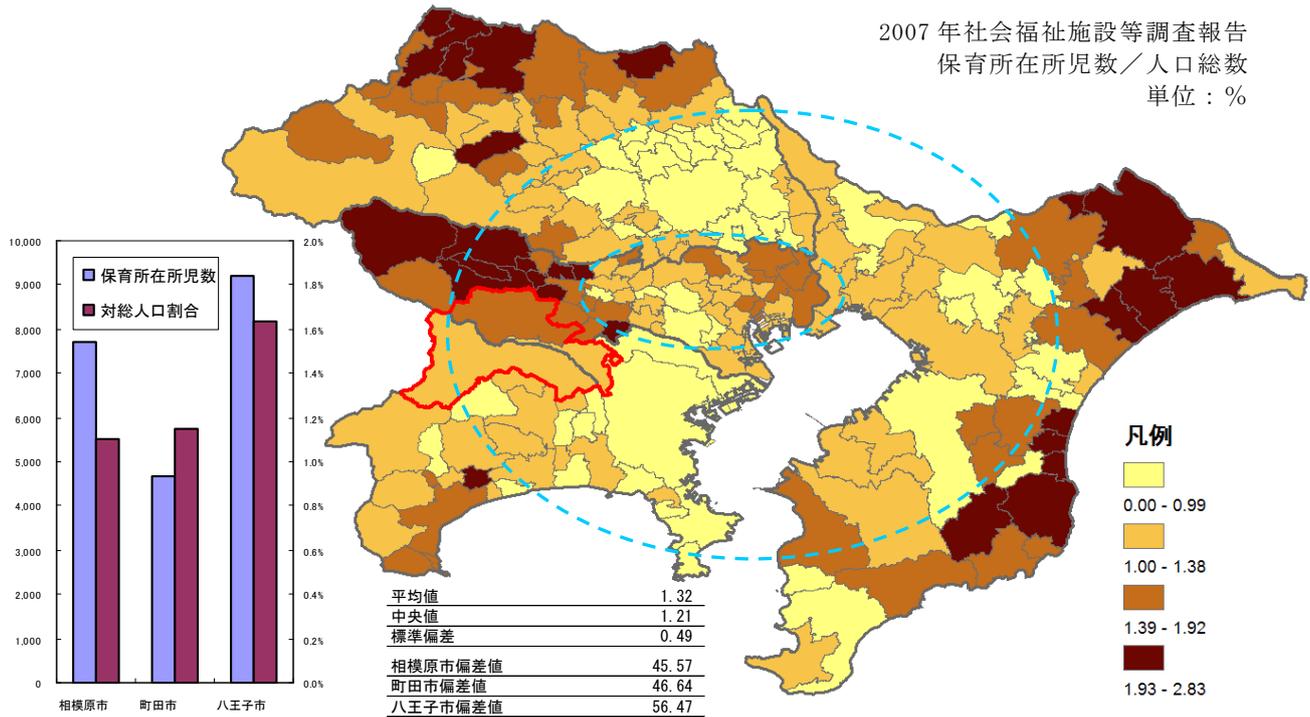


- ・東京都は、保育所数が多いにも関わらず、保育所入所待機児童数の割合も高い。
- ・埼玉県、千葉県、神奈川県では、保育所数が少ない地域で保育所入所待機児童数の割合も高くなる。
- ・3市の比較では、町田市、八王子市の割合が高いが、相模原市を含め、いずれも平均値を上回る。

【参考データ：87 保育所数】

89 保育所在所児数

2007年社会福祉施設等調査報告
保育所在所児数／人口総数
単位：％

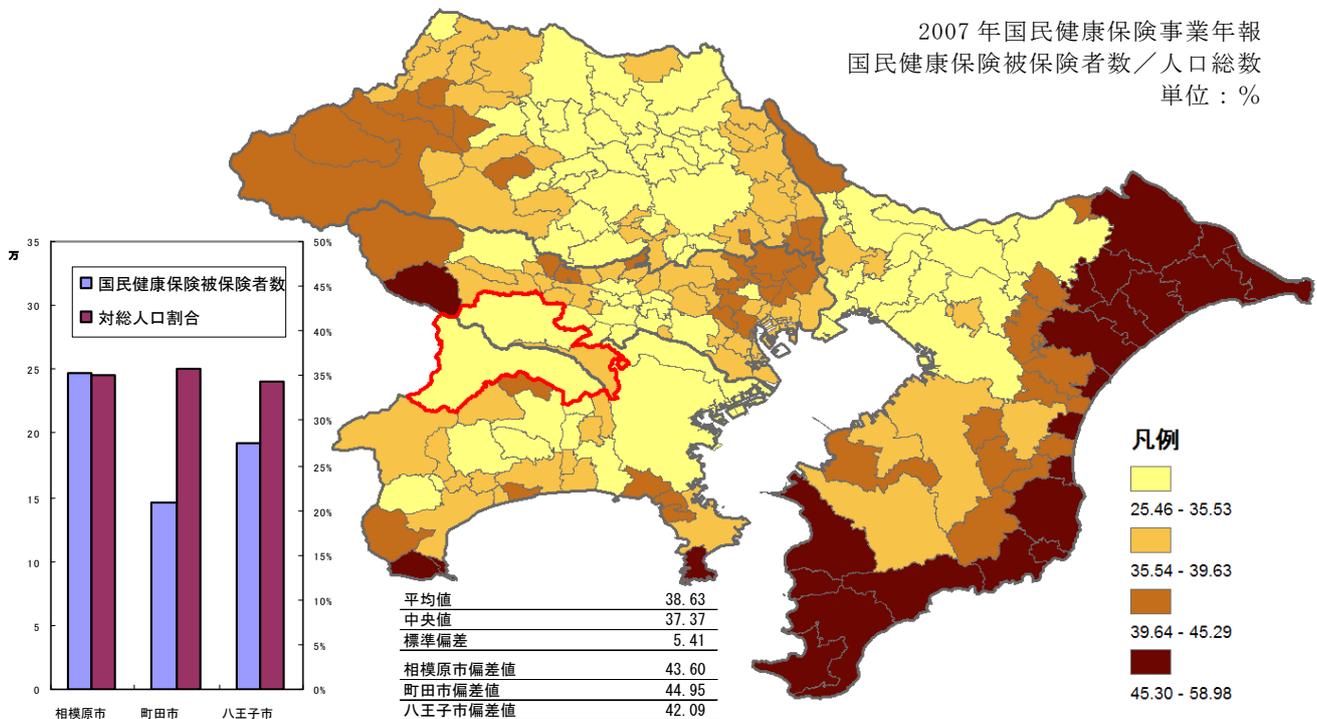


- ・ 保育所数の分布との比較では、ややバラツキが小さくなるが、雇用者数の多い地域⇨都心の通勤圏として人口急増した地域では、保育所在所児数の割合も低く、分布の傾向としては幼稚園在園者数と逆である。
- ・ 3市の比較では、八王子市の割合が高く、平均値を上回る一方、相模原市と町田市は平均値を下回る。

【参考データ：48 幼稚園在園者数、87 保育所数】

90 国民健康保険被保険者数

2007年国民健康保険事業年報
国民健康保険被保険者数／人口総数
単位：％



- ・ 業主の多い都心、外房などで国民健康保険被保険者の割合が高い。
- ・ 3市の比較では、大差なく、いずれも平均値を下回る。

【参考データ：63 雇用者数、65 雇人のある業主数、66 雇人のない業主数】